平成２９年度

大山崎町教育委員会事業報告書

（平成２８年度対象）

平成 29 年8月

大山崎町教育委員会

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定に基づき、平成２８年度事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、作成したものであります。

大山崎町教育委員会は、この点検・評価を踏まえ、今日的な教育課題や要請に対応した教育行政の推進に努力していきます。

大山崎町教育委員会

教育委員会名簿

職　名	氏　　名
教　育　長	清　水　　清
教育長職務代理	南　　顕　融
委　　員	並 川　康 子
委　　員	榎 本　　和 彦
委　　員	岡　　弘　子

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第 26 条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

１　教育委員会の活動状況

１．　会議の開催状況

No.	会　議　名	開　催　日	議事（審議）　案件
1	４月定例会	平成２８年　４月２０日	諸報告について （第３９号議案）大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について （第４０号議案）大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について （第４１号議案）大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について （第４２号議案）大山崎町立中央公民館の一部施設を当分の間使用中止とすることについて
2	５月定例会	平成２８年　５月２５日	諸報告について
3	６月定例会	平成２８年　６月２３日	諸報告について
4	７月定例会	平成２８年　７月２６日	諸報告について
5	８月定例会	平成２８年　８月２３日	諸報告について
6	９月定例会	平成２８年　９月２７日	諸報告について
7	１０月定例会	平成２８年１０月２６日	諸報告について
8	１１月定例会	平成２８年１１月２１日	諸報告について （第４３号議案）大山崎町立中央公民館管理及び運営規則並びに大山崎町体育館設置条例施行規則の一部改正について
9	１２月定例会	平成２８年１２月２７日	諸報告について
10	１月定例会	平成２９年　１月２６日	諸報告について
11	２月定例会	平成２９年　２月２３日	諸報告について （第１号議案）平成２９年度小学校使用教科用図書のうち学校教育法附則第９条に規定する教科用図書の採択について （第２号議案）平成２９年度中学校使用教科用図書のうち学校教育法附則第９条に規定する教科用図書の採択について
12	２月臨時会	平成２９年　２月２３日	（第３号議案）教職員管理職の人事異動について
13	３月臨時会	平成２９年　３月２３日	（第４号議案）大山崎町教育委員会事務局職員の任免について

14	3月定例会	平成２９年　3月２８日	諸報告について （第５号議案）平成２９年度学校・社会教育の指導の重点を定めることについて （第６号議案）平成２９年度小学校使用教科用図書のうち学校教育法附則第９条に規定する教科用図書の採択について （第７号議案）大山崎町社会教育委員の委嘱について （第８号議案）大山崎町社会教育委員の委嘱について （第９号議案）大山崎町社会教育委員の委嘱について （第１０号議案）大山崎町社会教育委員の委嘱について （第１１号議案）大山崎町社会教育委員の委嘱について （第１２号議案）大山崎町社会教育委員の委嘱について （第１３号議案）大山崎町社会教育委員の委嘱について （第１４号議案）大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について （第１５号議案）大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について （第１６号議案）大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について （第１７号議案）大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について （第１８号議案）大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について （第１９号議案）大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について （第２０号議案）大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について （第２１号議案）大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について （第２２号議案）大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について （第２３号議案）大山崎町立大山崎中学校評議員の委嘱について （第２４号議案）大山崎町立大山崎中学校評議員の委嘱について （第２５号議案）大山崎町立大山崎中学校評議員の委嘱について

２．その他の会議や活動など

（１）総合教育会議（町長が招集し、会議の構成員として教育長及び教育委員が出席）

	会　議　名	開　催　日	協議・調整事項
1	第１回	平成２８年　8月１９日	・大山崎町放課後児童健全育成事業「放課後児童クラブ（留守家庭児童会）」の運営について（事故の概要報告等と事故防止策の徹底に関して） ・その他
2	第２回	平成２９年　2月　6日	・大山崎町中学校給食検討委員会からの答申について ・第二大山崎小学校のプール、放課後児童クラブの移設計画案について ・その他

（２）教育委員の主な活動

教育委員会関係行事への参加（教育長のみが出席したものを除く）

- 大山崎町立小中学校入学式・卒業証書授与式
- 大山崎町立小中学校運動会・体育大会
- 大山崎町立小中学校授業参観（研究発表会等）
- 学校計画訪問（授業参観、懇談等）
- 大山崎町民体育祭
- 大山崎町自治記念式
- 大山崎町文化のつどい
- 乙訓地方小学生駅伝大会
- 大山崎町成人式
- 大山崎中学校吹奏楽部定期演奏会　ほか

（３）　委員研修

①　乙訓教育委員会連合会研修会　　平成２８年　５月　９日（月）
②　京都府市町村教育委員会連合会委員研修会　　５月２７日（金）
③　近畿市町村教育委員研修大会（和歌山県紀の川市）　　１０月２５日（火）
④　京都府内市町教育委員会研修会（京都市）　　１１月　２日（水）
⑤　乙訓教育委員会連合会研修会（京都市）　　平成２９年　１月３０日（月）

２　教育行政事務に係る点検・評価

（1）点検・評価の対象及び方法

平成２８年度「指導の重点」に位置付けられ、教育委員会が所管又は教育委員会が関わる項目について、外部評価対象事業とし、委員の方から事業評価を頂くとともに様々な意見・助言等をいただきました。

（2）評価委員

氏　名	役　職　等
浅野　輝男	人権擁護委員
田中　久美子	京都府教育委員会教師力向上ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　元校長

３　事業評価シート

事務事業番号＜１＞　　（平成２８年度事業）

<table>
<tr><td>事務事業名</td><td>学力向上推進事業Ⅰ</td><td>担当部署</td><td>学校教育課</td></tr>
<tr><td>事業実績</td><td colspan="3">学習意欲の喚起と基礎的・基本的な学力の定着及び向上に向け、児童生徒の実情に合わせた事業として、次のような取組を各校で行った。
① 子どものための京都式少人数教育の実施
＜大山崎小学校＞
第４・５・６学年で少人数学級を実施
＜第二大山崎小学校＞
第３学年で少人数授業を実施
第５学年の算数科で少人数授業を実施
＜大山崎中学校＞
第１学年の数学科・英語科、第２学年の英語科でティームティーチングを実施
英語科において小中連携加配を配置し、小学校第６学年でティームティーチングを実施
② 学力向上に向けた学校独自の取組
＜大山崎小学校＞
・山っ子検定の実施：国語(漢字)・算数(計算)における学年での達成目標を定め、学期毎に相当の検定試験問題に挑戦させた。結果によっては補習を行い、全員合格を目標に取り組んだ。
・補習がんばり日：全学年、週１日を設定した。
・マスターウィークチェック：家庭学習や生活習慣についてのチェック週間を設けて取り組んだ。
・「小学生個別補充学習『ジュニアわくわくスタディ』」として、第４・５学年、各約 20 名の児童を対象に算数の補習を実施した。
【実施日】7月 21 日（木）、22 日（金）、25 日（月）の３日間
＜第二大山崎小学校＞
・平成 28・29 年度「学力向上システム開発校」の指定を受け、研究主題を「子どもたちの『学びたい』を育てる　～英語活動によるコミュニケーション能力の育成を目指して～」と設定し、研究に取り組んだ。公開授業研修会等の実施から、教師の授業改善に取り組み、児童の学力向上を図った。
・朝学習では、漢字や計算の繰り返し反復学習により、基礎的・基本的な学習内容の定着を図った。
・学期毎のまとめテスト：指導内容の定着度を検証し、指導方法の改善に取り組んだ。
＜大山崎中学校＞
・京都府乙訓教育局「OASIS 校」の指定を受け、研究主題を「思考力の育成を基にした、生徒の主体的な学びを育む授業づくり」と設定し、研究に取り組んだ。校内での研修を通して、思考力を意識した授業改善に取り組んだ。
・「中２学力アップ集中講座」事業として、第２学年、40 名の生徒を対象に、数学、英語の学力アップを目指した学習を実施した。</td></tr>
</table>

	【実施日】7月27日（水）～29日（金）、8月22日（月）、23日（火）、11月5日（土）の6日間 ・「中1振り返り集中学習『ふりスタ』」事業として、第1学年、30名の生徒を対象に、数学・英語の補習学習を実施した。 【実施日】6月23日（木）、24日（金）、7月27日（水）～29日（金）、8月22日（月）、23日（火）の7日間 ③　英語教育推進事業 ・英検 Jr.の実施：小学校5・6年生を対象とし、町中央公民館を会場として実施した。検定料1,000円は町からの全額補助があり、無料として実施。参加児童69名。 【実施日】2月4日（土） ・英語検定の実施：一次試験について、中学校を準会場として英語検定を年3回実施した。検定費用として一人1回1,000円、町からの補助。参加生徒は延べ175名。 【実施日】6月10日（金）、10月8日（土）、1月20日（金） ・英語学習発表会：小学校5・6年生、中学生を対象に英語学習の成果についての発表会を実施した。大阪成蹊大学教育学部赤沢真世准教授を講師として招へいし、指導助言をいただいた。発表児童生徒は65名。当日参加者は約200名。 【実施日】11月6日（日）
成　　果	・　少人数学級及び少人数授業により、個に応じた適切できめ細かい学習指導や生徒指導が可能になり、落ち着いて学習に取り組む姿勢が作られ、児童生徒の学習への関心が高めることができた。 ・　英語科の小中連携加配の効用として、小学校の外国語活動の充実と中学校での学習規律をはじめとする学校生活への円滑な接続となっている。 ・　小学校での山っ子検定や学期ごとのまとめテストでは、各児童の学習の定着度合いが把握でき指導に役立つとともに、児童の学習への意欲向上につながった。 ・　各校の重点研究の取組を通して、授業改善、指導力向上を図ることができた。 ・　中2学力アップ講座は、数学、英語の補充学習を実施し、個々の生徒の学力アップにつながった。 ・　中1振り返り集中講座「ふりスタ」や、小学生個別補充学習「ジュニアわくわくスタディ」では、基礎的・基本的な内容を中心に学習内容を厳選し、徹底した個別指導を行っており、その学習内容の定着と学習に対する意欲や興味・関心を高めることができたのではないかと考えられる。 ・　今年度から小学生も対象として取り組んだ英語検定の実施は、多くの児童生徒の学習意欲の向上につながっている。特に、英語の検定費補助は、受験人数の増加の効果が大きかった。
課 題 認 識	・　より効果的に少人数教育を進めるため、小中学校の連携を図りながら、各種の学力診断テストなどを活用し、学力の向上の視点で分析及び検証しながらその在り方を研究する必要がある。 ・　新学習指導要領の周知、指導計画の見直し等の研修が必要である。今後の国の動きに注視する必要がある。

	・　平成 30 年度より移行措置、32 年度より本格実施される小学校 5・6 年生の外国語科、3・4 年生の外国語活動が円滑に進められるための研修が必要である。
評価委員の所見	・「学力向上」を課題と捉え、向上への各取組が行われていることは評価できる。引き続き、児童生徒に、授業で「主体的・対話的で深い学び」が実現し、今後の社会に求められる力が付けられるような努力をしてほしい。 ・学力向上において、学力テスト等は一定の目安にはなり「平均」だけにとらわれず、個々の児童生徒の状況を捉えることが大切になるが、その意味で少人数学級、少人数授業、ティーム・ティーチング、振り返り集中学習等、個に応じた指導は、個々の児童生徒の学力状況に応じた指導ができ、学力向上に大変有効であり、今後も継続して取り組まれたい。 ・英語検定補助は素晴らしい。グローバル化の時代、国を挙げて国際理解や英語への関心・意欲・技能の向上が言われている。小学5・6年生の英語の教科化を見据えて、小学生にも拡充されたのは望ましいことである。ただ、英語が学外でそれを習う児童生徒だけのものとならないよう、より一層全ての児童生徒の言葉への関心、英語力向上をお願いしたい。 ・英語学習発表会も英語力向上に有効な機会となっていると思われる。 ・新学習指導要領は小中学校、全ての教職員で研修し、教育課程上も遺漏の無いよう取り組まれることを望む。 ・教育課程外の学習会は教職員に物理的時間や時間には表れない負担が予想される。児童生徒への学習効果が検証されているのであれば、学習会が継続できる具体的な支援策を望む。

事務事業番号＜２＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	学力向上推進事業Ⅱ	担当部署	学校教育課
事業実績	①　標準授業時数の確保 町内小・中学校の全学年で、標準授業時数を上回るとともに、教育課程外の行事も計画通り実施できた。 ②　学力向上に向けた教科補習の取組 教育課程外の取組として、小学校では、毎週２～３日間の補習、毎日の朝学習を実施した。 中学校では、毎日の朝学習、定期テスト前の補習、夏季休業中の補習、中１振り返り集中講座、中２学力アップ事業、進路補習の補習学習を実施した。		
成果	・標準授業時数の確保は、小・中学校とも確保できた。 ・長期休業中を活用した補習学習、土曜日活用、行事の精選など、教育課程外時間での学力向上に向けた取組ができている。		
課題認識	・授業時数の確保は、学力の保障や向上及び進路保障において必要要件である。そのため、授業時数の確保を最優先し、他の行事が編成しにくい状況にある。 ・学校が楽しく心豊かな児童生徒の育成を目指した事業を、土曜日活用を含めてどう編成するかが課題である。 ・地域の教育力（社会人講師、学校支援ボランティア等）を活用した学力向上に向けて教育課程内で取り組む方法を検討する必要がある。		
評価委員の所見	・標準授業時数を確保することは重要である。 ・教育課題は年々膨らむ様相がある。引き続き、ねらいや付けたい力を明確にし重要度を勘案しながら思い切った精選や工夫しての取組に期待したい。 ・児童生徒に付けたい力と教職員の「働き方改革」との兼ね合いを考慮できることが望ましい。 ・地域の教育力の活用、土曜日の活用等による心豊かな児童生徒の育成に努められたい。新学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」の観点で地域社会と共に児童生徒を育めるよう働きかける必要がある。		

事務事業番号＜３＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	特色ある学校づくりⅠ	担当部署	学校教育課
事業実績	◇小学校陸上交歓記録会（第６学年対象） 9月29日(木)　大山崎小学校運動場・体育館 【全員種目】50m走 【エントリー種目Ａ】走り幅跳び、走り高跳び、ソフトボール投げ 【エントリー種目Ｂ】100m走、50mハードル 【選択種目】学級別リレー		
成果	・児童は、各競技を通して、自分の体力・運動能力を把握できるとともに、合同開催により意欲を持って取り組むことができ、全力を出し切り、両校児童の交流を深めた。		
課題認識	・本記録会は、体力や運動能力の向上を図る契機であり、児童にとっては自己の全力を出しきる楽しさや喜びを味わう大切な機会である。 ・本記録会が、両校の児童の体力づくりや運動能力の向上に結びついた取組になることがさらに期待される。		
評価委員の所見	・両小学校の児童が「陸上競技」を通じて交流を深める良い機会となっている。 ・新たな種目の学級別リレーは児童に、より参加意識が生まれたのではないか。 ・中学校での開催は児童にとって貴重な体験であり、スケジュールを合わせて是非実施され、中学校の陸上部のリレーを見せる機会等にしてはどうか。		

事務事業番号＜４＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	特色ある学校づくりⅡ	担当部署	学校教育課
事業実績	①　「ＫＹＯ発見　仕事・文化体験活動」推進事業 ＜大山崎小学校　４年生＞ 実施日　：５月～１２月 実施内容：大山崎町の伝統的な作物であるエゴマの栽培と収穫 ＜第二大山崎小学校　４年生＞ 実施日　：平成２９年１月１７日(火) 実施内容：保育所、幼稚園、消防署、福祉施設、商店等の事業所にて、仕事についての学習や体験活動 実施日　：平成２９年２月２８日（火） 実施内容　生け花体験 ＜大山崎中学校　２年生＞※キャリア教育として「職場体験活動」を実施 実施日　：１１月９日(水)・１０日(木) 実施内容：保育所、消防署、公共施設、福祉施設、美術館、商店等の事業所２５カ所にて、仕事についての学習や体験活動 ②　フェンシング体験 実施日：６月２３日(木)　午前：大山崎小学校、午後：第二大山崎小学校 対象児童：第３学年 実施内容・基本的なルールや用具の名前や使い方 ・マスクやユニフォームを着用しての試合形式のゲーム ・国体選手による模範試合の披露 ※指導は京都フェンシング協会及び乙訓高等学校の池端花奈恵教諭に依頼し、大山崎中学校フェンシング部顧問の稲垣菜採教諭も指導に当たる。 ③　もうすぐ１年生体験入学推進事業 ＜大山崎小学校＞ ９月１７日(土)　学校探検「学校ってどんなとこ？」教室の見学や授業参観等 １０月２２日(土)　「運動会に参加しよう！」　３０m走の参加 ２月２８日(火)・３月７日(火)　体験入学「小学校をたんけんしよう」　授業参観、学習体験、交流あそびなど ＜第二大山崎小学校＞ １０月２２日(土)　「小学校の運動会！よーいどん！」　３０m走の参加 １１月２４日(木)・１２月６日(火)　「１年生との交流会」　生活科の学習体験、１年生との交流など ２月２１日（火）　「１年生との交流会」　学校案内と交流遊び		
成　　果	①　「ＫＹＯ発見　仕事・文化体験活動」は、キャリア教育の一環として取り組み、勤労体験をすることで、その楽しさや厳しさを知り、地域社会との交流や地域の産業への関わりを深めるとともに、歴史的に本町とかかわりの深いえごまの栽培・搾油等を通じて歴史・文化的学習の機会を提供することができた。 中学校では、体験を通して望ましい職業観や勤労観を身に付けさせるとともに、地域社会に貢献する意欲も高められた。		

	②　フェンシング体験事業は毎年小学校第３学年において実施しており、児童にとってフェンシング競技への関心を高める貴重な機会となっている。こうした取組もあり、大山崎中学校のフェンシング部では、専門的な指導力のある顧問の指導の下、部員数も増加し活発な活動と優秀な成績（全国中学校フェンシング選手権大会３位、フェンシングアジア選手権優勝等）を残している。 ③　もうすぐ１年生体験入学推進事業では、入学前の子ども達が、小学校の教室で授業体験をするなど、小学校の学習活動に参加し、小学校入学への不安の解消を図るとともに、学習に対する興味を持ち、新たに始まる学校生活への期待を高めることができた。また、小学校としては、入学前の幼児の様子を見ることができ、幼児の特性を掴むことができた。
課題認識	①　「ＫＹＯ発見　仕事・文化体験活動」を通して、得たものや学んだことを生かし、社会の一員としての規範意識の育成が図られることを期待している。 ②　児童はフェンシング体験授業において、フェンシング競技への楽しさや面白さを体験することができ、今後、フェンシング競技への参加児童生徒の拡大が期待される。 ③　もうすぐ１年生体験入学を通して、入学後の生活習慣や学習習慣の変化への対応など、保育所・幼稚園などと小学校との円滑な接続について期待される。
評価委員の所見	・平成２７年度まで実施されていた体験活動推進事業（第５学年児童対象）がなくなったのは残念である。補助金削減の厳しい中ではあるが、復活されることを望む。 ・大山崎町の伝統的な作物であるエゴマの栽培と収穫は、大山崎小学校だけではなく、第二大山崎小学校においても実施されることを望む。 ・各校ともキャリア教育としても地域学習としても意味ある取組である。ただ、発達段階が違うとはいえ、小学校と中学校の取組に重複がないよう工夫されたい。 ・フェンシングはオリンピック・パラリンピック教育としても評価したい。中学校では珍しいフェンシング部に専門的な指導ができる顧問がいることは大変心強く、全国レベルの技量が維持されるよう期待する。 ・「もうすぐ１年生体験入学」は、入学前児童にとって小学校の様子を知ることのできる機会であり、指導者同士の交流も含め保幼小連携も期待される。 ・入学前の児童と共にその保護者への啓発・ケア等にも配慮できる取組が望ましい。

事務事業番号＜５＞　　（平成２８年度事業）

<table>
<tr><td>事務事業名</td><td>特色ある学校づくりⅢ</td><td>担当部署</td><td>学校教育課</td></tr>
<tr><td>事業実績</td><td colspan="3">◇土曜日を活用した授業・行事等の実施
①　土曜活用・・・学期に１回実施、午前中授業で振替休日はなし
<table>
<tr><th>大山崎小学校</th><th>第二大山崎小学校</th><th>大山崎中学校</th></tr>
<tr><td>5月１２日
教科授業（参観）
学校説明会</td><td>5月7日
１年生を迎える会
学校説明会</td><td>6月4日
教科授業
学級懇談会・学校紹介
進路学習会</td></tr>
<tr><td>9月１０日
教科授業（参観）</td><td>１２月１７日
教科授業
ありがとう会</td><td>１１月１５日
教科授業（参観）
学級懇談会</td></tr>
<tr><td>1月２０日
教科授業（参観）
大縄大会・書初め展</td><td>1月１４日
教科授業（参観）
見守り隊交流行事
（平安騎馬隊）</td><td>2月4日
講演会（オリパラ事業）</td></tr>
</table>
②　土曜授業・・・振替休日あり
<table>
<tr><th>大山崎小学校</th><th>第二大山崎小学校</th></tr>
<tr><td>６月 10 日
学校行事
（修学旅行 ６年生）</td><td>4月１６日
教科授業（参観）
除草作業・学校説明会
５月 27 日
野外活動（５年生）</td></tr>
<tr><td colspan="2">１０月２１日
運動会</td></tr>
<tr><td colspan="2">１１月２５日
教科授業（参観）・乙訓小学生駅伝</td></tr>
</table>
③　教育課程外としての土曜日を活用
＜小学校＞
学年交流会（全学年）
＜中学校＞
部活動、学校クリーンデー、部活動参観・懇談、英語検定</td></tr>
<tr><td>成　　果</td><td colspan="3">・①の土曜日を活用した授業は、授業時間数の確保においても有効であったが、学校の特色ある行事等の編成に余裕が生まれた。
・土曜日に学校公開の取組を行うことで、保護者からも好評で参加数が増えた。</td></tr>
<tr><td>課題認識</td><td colspan="3">・スポーツ団体や高等学校の説明会など、各種団体の催しと重なり、児童生徒の出席を確保するための日程調整が難しい。
・教職員の勤務環境を整える必要がある。</td></tr>
</table>

評価委員の所見	・各種団体との日程調整にはご苦労されているところであるが、いろいろな行事を実施していくためには調整は必須と思われる。 ・土曜参観は、保護者が児童生徒の学校生活の様子を知る上で有効であり、是非とも継続されたい。 ・児童生徒・保護者・教職員等の負担が少ない取り組み方を模索しながら、児童生徒への成果を期待したい。

事務事業番号＜６＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	特色ある学校づくりⅣ	担当部署	学校教育課
事業実績	①　リーフレット「大山崎っ子できます１０」の活用 小・中学校で身に付けてほしい１０項目の取組を定め、達成するために小学校低学年、中学年、高学年、中学生の４段階に分け、学年ごとに目当てを示した「大山崎っ子　できます１０」を作成し、全児童生徒への配布と各教室での掲示や学校だよりでの紹介を行い、毎日の生活で意識することや保護者への啓発と協力を願った。 学校評価における児童生徒や保護者へのアンケート調査の項目に盛り込み、目標項目に対して達成状況を把握した。 ②　作品応募の成績や活動の実績 小・中学校とも、各種団体の作品応募に積極的に取組み、児童生徒のもつ能力の育成と発揮する機会を持たせ、多くの優秀なる評価を得た。また、スポーツ活動にも実績を残した。(以下はその一例) ＜大山崎小学校＞ 「第 14 回京都発！手紙でむすぶ家族ふれあい大賞」ピカピカ家族賞・入選、「第 29 回国際平和ポスターコンテスト」クラブ優秀賞、「明るい選挙啓発ポスター」大山崎町明るい選挙推進協議会賞など多数、「京都新聞書き初め展」佳作多数 ＜第二大山崎小学校＞ 「全国教育美術展」佳作多数、「府教育美術展」奨励賞多数、「お話を絵にするコンクール」佳作多数・入選多数、「京都新聞書き初め展」佳作多数 ＜大山崎中学校＞ 「全国中学生フェンシング選手権大会」個人優勝・団体３位、「女子ソフトテニス部個人の部」京都府大会出場、「京都府吹奏楽コンクール」銀賞、「京都府アンサンブルコンテスト」金賞、夏季府大会」バドミントン個人優勝（全国大会出場）、など		
成果	①　本町教育振興計画を踏まえ、日々の生活の中で大切にしたいことや９年間を通して醸成したい項目を統一して掲げ、各家庭へも啓発したことにより、これに基づき一貫性のある指導と協力が得られ、挨拶や時間を大切にするなどの項目をはじめ効果が上がっている。 ②　各種団体への作品応募を取り組むことにより、学習によって得た能力や特技の向上と一層の意欲喚起を図ることができた。また、応募結果や大会結果を児童生徒の前で伝達顕彰することで、更に効果が現れている。		
課題認識	①　教職員への周知や保護者への啓発をはじめ、学校教育だけではなく、保護者や地域住民を含め広く広報活動が必要である。 ②　教科内の時間において応募作品に取り組むことは難しく、家庭での課題学習となり、全員が取り組むことや作品へのアドバイスができない。		
評価委員の所見	・フェンシング大会、吹奏楽コンクール等で優秀な成績を残されており、今後も継続した取組を期待したい。 ・リーフレット「大山崎っ子できます１０」は９年間の見通しを意識し作成されているのが良い。また、達成するためにスモールステップで目当てを決め、啓		

	発されたのも良い。また、引き続き、保幼小連携で就学前児、保護者等にも啓発するなど、本町の子ども達の育成に総掛かりで取り組む機運の醸成に期待したい。ただ、児童生徒が「10」に近付いているのか検証したり、リーフレットの内容そのものを見直したりしながら推進されることを願う。 ・各種作品募集や大会に積極的に参加され、児童生徒の励みにも自信にもなり得るので評価できる。多彩な募集全てには対応できないから、教育課程に取り込めるものを精選し、年度当初に位置付けておくと指導が可能となる。

事務事業番号＜７＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	いじめ問題への取組	担当部署	学校教育課
事業実績	１　「いじめ問題への取組の徹底」（教育長通知５月２９日） 全校生徒を対象とした３回のいじめ問題調査 ・調査方法：アンケート及び面接調査による実態把握 （３回目は面談･日常の観察等による実態把握） ・調査結果を学校評議員やＰＴＡ本部役員に説明 ・学校だよりを通して概要報告 ・調査の対象期間は４月又は前回調査終了日から各調査実施日まで ①　１回目　　７月　１日から　７月１７日まで ②　２回目　１２月　１日から１２月２２日まで ③　３回目　３月末まで ２　人権教育の学校の取組 ＜大山崎小学校＞なかよし集会、人権週間の設定、学年毎の人権学習 ＜第二大山崎小学校＞人権の木、人権週間の設定、学年毎の人権学習 ＜大山崎中学校＞人権週間の設定、学年毎の人権学習、学年集会、教育相談の実施（６、１１月） ３　学校におけるいじめ防止基本方針の研修・実施（平成２６年４月より実施）及び校内いじめ防止対策委員会の定期的（ほぼ隔週）な実施 ４　町いじめ防止対策推進委員会（専門職５人）、いじめ防止連絡協議会（乙訓の小中学校生徒指導主任）の実施		
成果	・アンケート及び面接による調査により、児童生徒の「いやな思いをした」という実態の把握や確認することができ、重大な事態に至ることなく、適切な指導をすることができた。 ・アンケート及び面接による調査を丁寧に年複数回行うことにより、早期発見につながるとともに、指導後の経過についても把握することができた。 ・学校におけるいじめ防止基本方針に添っての年度当初の確認や校内いじめ防止対策委員会の定期的な会議の実施により、事象に対する共有と組織的な指導をはじめ、教員のいじめに関する意識が一層高まっているといえる。		
課題認識	・いじめの問題の重要性といじめはいつ起こるかわからないという認識のもと、教員の人権感覚を高めるとともに、いじめの未然防止、早期発見・早期対応をはじめ、いじめを許さない学校づくりへの組織的な取組の徹底が重要である。		
評価委員の所見	・乙訓地域では人権擁護委員による中学生対象の人権教室も実施されており、あらゆる教育活動での人権教育の推進を期待する。 ・アンケート、面接、研修会等を行い、未然防止、早期発見・早期対応に努力された。全国ではいじめにより重大な事件になったというニュースが後を絶たない。今後も形骸化しないようにして、一人一人が自尊感情や自己有用感が持てるような居場所作り、いじめを許さない学校作りに取り組んでいただきたい。ただ、アンケートの時期は日々の指導に生かせるよう学期途中にできないか。 ・教職員の鋭い人権意識、学級経営力、児童生徒理解・生徒指導力の向上が鍵になる。		

	・チーム学校として、スクールカウンセラーや関係機関との連携を日常的に行えるように意識してほしい。

事務事業番号＜８＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	特別支援教育推進事業	担当部署	学校教育課
事業実績	①　特別支援学級の設置 ・大山崎小学校　　３学級（知的障害：２学級、自閉症・情緒障害：１学級） ・第二大山崎小学校　２学級（知的障害：１学級、自閉症・情緒障害：１学級） ・大山崎中学校　　２学級（知的障害：１学級、自閉症・情緒障害：１学級） ②通級指導教室の設置 ・大山崎小学校　　通級児童数３１名 ・第二大山崎小学校　通級児童数２２名 ③　個別の特別支援教育の充実 特別支援教育支援員（町単費）の配置 ・大山崎小学校　　２人 ・第二大山崎小学校　１人 ・大山崎中学校　　１人　※平成２８年度から配置 ④　大山崎町教育支援委員会 ・大山崎町教育支援委員会総会（6月２０日、１０月３１日、2月２７日開催） ・　〃　就学前部会（8月１日、１０月３日開催） ・　〃　在学部会（5月２７日、１０月１１日、平成２９年1月３０日開催） ・　〃　特別支援教育推進部会（３月１０日研修会として開催） ・相談活動等（９月６日、９月８日、９月９日、９月１２日、９月１３日、９月１５日、９月２０日、９月２１日実施） 平成２５年度から、審議結果を該当未就学児童の保護者に、より丁寧に経過説明と今後の就学指導をするために、従来の所属長等だけではなく、就学先校長や事務局も入り、連携して保護者との就学指導に当たり、次年度向けて、特別支援教育をさらに充実させることとしている。 ⑤　特別支援学級林間学習（7月5、２６日実施）、サマースクール（7月２１、２３、２８、２９日実施）、特別支援学級「卒業・進級を祝う会」（2月１４日実施）の取組		
成　　果	①　特別支援教育支援員の配置により町内二小学校の特別支援学級では、個々児童に個別に対応でき、児童の学校生活面においても、情緒の安定につながり、また、学力向上にもつながってきている。 ②　大山崎町教育支援委員会の審議結果等を該当未就学児童の保護者に関係機関の長等が入って伝えることにより、保護者、保育所・幼稚園等及び小学校の連携が深まった。		
課題認識	・　保育所職員や幼稚園教諭の中で、さらに「知的障害」と「自閉症・情緒障害」の障害種別の理解を深めてもらうため、保・幼・小の連携を密にして、特別支援学級の参観・交流を深め、大山崎町教育支援委員会特別支援教育推進部が企画する町特別支援教育研修会の内容をさらに充実する必要がある。		

評価委員の所見	・各校に知的障害及び自閉症・情緒障害、それぞれの学級が設置されていることは非常に評価できる。 ・特別支援教育を実施する上で、保・幼・小の連携は重要であり、今後も連携を密にし、適切な指導が実施されることを期待する。 ・特別支援教育支援員の配置は、大変望ましい。専門性のある人材が配置されるよう願う。 ・両小学校に設置されている通級指導教室は、利用児童数も多く、その役割は重要である。大山崎中学校においては特別支援教育支援員の配置が行われ、評価するも、インクルーシブ教育の視点からも通級指導教室の設置が望まれる。 ・「大山崎町教育支援委員会」への名称変更に伴う内容の充実を期待する。 ・特別支援教育支援員の配置は、大変望ましい。更に人員増及び専門性のある人材が配置されるよう願う。

事務事業番号＜９＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	小学校給食	担当部署	学校教育課
事業実績	① 学校給食実施 実施児童数 ９０３人（平成２８年５月１日現在） 米飯給食　週３．５回実施 ② 安心・安全な給食を実施するための衛生管理及び食中毒防止対策 給食施設の監視指導及び、給食調理員・栄養教諭（職員）を対象に衛生研修会を実施。また、給食室害虫駆除、調理従事員等保菌検査等を実施。 ③ 学校給食調理等業務委託実施（全小学校）		
成果	・ 学校給食の給食調理員・栄養教諭（職員）を対象とした衛生研修会では、スライドを使用した研修方法を実施し、給食調理員・栄養教諭（職員）の衛生管理の意識向上を図ることができた。		
課題認識	・ 給食室の衛生管理をさらに徹底するためには、施設改修や給食備品の更新等が必要であるが、多額の費用がかかるため、すべてを実施することが困難である。		
評価委員の所見	・両小学校の給食設備は老朽化が進んでおり、計画的な改善が望まれるところであるが、中学校給食の実施に伴う施設のあり方とも深く関連するため、決定された方式を基に設備の改善に努められたい。 ・栄養教諭による食育の指導も重要な役目を担っており、今後も継続されたい。 ・今後も適切なアレルギー対応等が施された安心・安全な給食提供を望む。		

事務事業番号＜１０＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	中学校給食導入検討事業	担当部署	学校教育課
事業実績	中学校給食の導入に向けて、成長期にある中学生の健全な育成や「食育」の観点、また、本町の小学校給食（施設面・食育面）の現状・将来的なあり方も踏まえて、望ましい学校給食の方式を検討。 ・「大山崎中学校給食検討委員会設置要綱」平成 28 年7月１日施行 ・「大山崎中学校給食検討委員委嘱」、諮問「大山崎中学校への給食導入について」（2016 年 10 月6日） ・答申「大山崎中学校への給食導入について」（2016 年 12 月 27 日） ---------- 「大山崎中学校給食検討委員会」高橋 享子 委員長（有識者：武庫川女子大学生活環境学部食物栄養学科教授、坂本 博士 副委員長（保護者代表）、他委員６名 第１回検討委員会（2016 年 10 月6日）◇委員会の設置◇学校給食の概要◇現地視察 （2016 年 10 月 21 日）事例視察〈親子方式：大阪府島本町〉 第２回検討委員会（2016 年 10 月 27 日◇実施方式の検討◇給食指導の検討 （2016 年 11 月８日）事例視察〈センター方式：京都府宇治田原町〉 第３回検討委員会（2016 年 11月17 日）◇実施方式の検討◇給食指導の検討 第４回検討委員会（2016 年 12 月１５日）◇実施方式の検討◇取りまとめ 上記、「大山崎中学校給食導入検討支援業務委託」受託業者：パシフィックコンサルタンツ株式会社、業務委託料：4,266,000 円、履行期間：着手 平成 28 年7月２３日～完成 平成 29 年３月８日、成果物：大山崎中学校給食検討委員会報告書及び報告書【資料編】		
成果	中学校給食の導入に向けて、検討委員会を設置して既存の両小学校の給食室の老朽化の状況も踏まえて具体的な実施方式を検討した。 検討委員会の答申を受けて、「大山崎町総合教育会議」における協議において、「提言を踏まえて学校給食の将来を見据えて取組みを進める」ことが調整された。 平成 28 年度の検討結果を受け、平成 29 年度当初予算において、具体的な中学校給食の実施方式の実現に向けた施設整備を行うための基本設計予算を計上した。		
課題認識	町の財政状況を考慮し、事業の進捗を図ることが求められる。 中学校給食実施に向けて、学校現場レベルの協議調整を今後取り組む必要がある。		
評価委員の所見	・中学校給食については、スクールランチ方式を試行的に導入しながら中学校給食のあり方を検討されてきたが、乙訓２市においても本格導入が決定されてきた中、大山崎中学校にも本格導入は自然な流れである。検討委員会の提言を基に、計画的な施設整備に努められたい。		

事務事業番号＜１１＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	教師力向上事業	担当部署	学校教育課
事業実績	① 大山崎町学力向上対策会議 児童生徒の学力の充実・向上を目指し、町学力向上対策会議（担当校長、担当教頭、各校教務主任、指導主事で構成）を年３回実施した。 各校の府学力診断テスト（小４、中１・２）、全国学力・学習状況調査（小６、中３）及び標準学力調査（小２・３・５　町費負担）の分析を行い、成果と課題を交流し、小中学校間の系統的な課題克服に向けた方策の検討と実践や、小中連携の研修会に取り組んだ。 ② 大山崎町「教師力向上小・中学校連携」教職員研修会 本研修会は、町学力向上対策会議で企画・立案し、中学校教師の小学校への乗り入れ授業や小・中連携を活かした研修会、公開授業参観を実施した。 全体教職員研修会は年２回、教科部会を年５回実施し、第２回全体教職員研修会は大山崎小学校を会場に、各教科で小・中学校の教師がＴＴで、公開授業を実施した。（乗り入れ授業） 〈第１回〉 開催日：平成 28 年６月 22 日　於大山崎中学校　参加人数：約 75 名 内　容：公開授業、全体研修会、教科部会 〈第２回〉 開催日：平成 28 年８月４日　　於大山崎中学校　参加人数：約 75 名 内　容：教科部会 〈第３回〉 開催日：平成 28 年 12 月５日　於大山崎小学校　参加人数：約 75 名 内　容：教科部会 〈第４回〉 開催日：平成 29 年１月 26 日　於第二大山崎小学校　参加人数：約 75 名 内　容：公開授業、事後研究会、教科部会 〈第５回〉 開催日：平成 29 年２月１日　　於大山崎小学校　参加人数：約 75 名 内　容：乗り入れ授業、教科部会、全体研修会 ③ 町立小・中学校新規着任教職員研修会 本研修会は、若手人材育成と本町の特色の理解を深めることを目的に継続的に実施している。午前の部では、新規教職員の研修会を実施し、午後の部では、新規教職員と着任教職員を対象に大山崎町の史跡学習を行った。 開催日：平成 28 年８月２日　参加人数：９名 平成 28 年８月５日　参加人数：３名 内　容：午前は、新規教職員対象の研修会 午後は、新規教職員と着任教職員対象に、大山崎町の歴史についての講話と、その後は大山崎町内の史跡名所等の現地学習 ④ 道徳教育研修会 本研修会は、児童生徒に道徳的実践力を育てるため、教師の授業力の向上を目指して実施した。（講師：京都府乙訓教育局　指導主事）		

事業実績	開催日：平成 28 年8月4日　　参加人数：約 75 名 内　容：「これからの道徳教育の在り方について」をテーマに講師が教師参加型の研修会で、授業実践に活用できる講話をした。 ⑤　英語教育研修会 本研修会は、教職員の英語の授業力向上を目指して、今年度初めて実施した。 （講師：大阪成蹊大学教育学部　赤沢真世准教授） 開催日：平成 28 年8月 29 日　参加人数：約 50 名 内　容：講演「小学校外国語活動で大切にしたいこと」 ⑤　研究指定に係る公開授業・授業研究会 ア　第二大山崎小学校では、平成 28・29 年度京都府教育委員会、大山崎町教育委員会指定「学力向上システム開発校」を受け、公開授業を実施した。 開催日：平成 29 年 1 月 26 日　参加人数：約 80 名 内　容：公開授業、事後研究会 イ　大山崎中学校では、平成 28 年度京都府乙訓教育局研究指定、大山崎町教育委員会指定「OASIS 校」を受け、校内授業研究会を実施し、乙訓教育局指導主事より指導をいただいた。 開催日：平成 28 年 11 月 21 日 内　容：研究授業（英語・社会・理科・技術）、事後研究会、全体会、指導講評 ⑥　指導主事・教育委員学校訪問 町「学校教育の重点」の趣旨の実現に向けた教育活動の充実を図るため、各学校の課題について必要な指導助言を行うことを主な目的として、「指導主事・教育委員学校訪問」を5・6月に町内全小・中学校で実施した。中心授業と全学年・学級での公開授業を参観し指導講評を行った。 開催日：平成 28 年5月 23 日　大山崎小学校　　参加人数：8名 内　容：中心授業、一般授業参観、授業に対しての指導助言 開催日：平成 28 年6月8日　　大山崎中学校　　参加人数：18 名 内　容：中心授業、一般授業参観、授業に対しての指導助言 開催日：平成 28 年6月 22 日　第二大山崎小学校 参加人数：8名 内　容：中心授業、一般授業参観、授業に対しての指導助言
成　　果	①　小中連携研修会では、7つの教科部会（国語、社会、算数・数学、理科、実技、外国語、教育相談）を組織し、小中の教職員が、「学習意欲の向上」に絞って授業研究を重ね、乗り入れ授業等を実施することができた。部会を通して、小・中学校の教員が互いの指導方法を学び、授業力の向上が図れた。 ②　本町では、夏季休業中の教職員の道徳研修会は十数年続いていて、伝統的な取組である。その取組の成果として、「指導主事・教育委員学校訪問」の公開授業では、道徳の授業を行う教員が増えてきた。資料の選定や授業内容も児童生徒の心に響くようになり充実してきた。
課題認識	①　若手教職員が増えていく中、ミドルリーダーの育成と若手教職員の育成と相互の授業力向上に向けた研鑽が今後の課題である。 ②　新学習指導要領の実施を意識した研修（特に道徳・外国語）を充実させていく必要がある。

評価委員の所見	・本町は２つの小学校と１つの中学校というコンパクトな学校構成になっており、小・中連携を図りやすい環境であり、タイムリーな課題に対応した研究・研修をされている。今後とも質の高い授業が実施できるよう、共通認識のもと授業改善に向け研究されたい。 ・小中連携による質の高い授業への取組は素晴らしい。今後も新学習指導要領も含め計画的に授業改善に向け研究されたい。 ・新規着任教職員研修は、児童生徒と「大山崎町」を学ぶ上で欠かせない意義あることであり、今後も継続して実施されることを望む。 ・教職員の世代交代が進む中、授業力(指導技術)の継承、新学習指導要領に向けた工夫改善、危機管理意識等の特にミドルリーダーや若手の人材育成が急務である。 ・教師力というととかく、学力・授業に視点がいくが、そのベースとなる児童生徒理解、生徒指導、学級経営の中で児童生徒に居心地の良い場所を創り出す力の育成を望む。特別支援・人権といったソフト面の教師力も重要視したい。 ・児童生徒に望む新しい時代に対応できる力は教職員にも期待されている。教育課題も多い中、今後もライフステージに応じたキャリアアップ計画を立てさせ、ＯＪＴを含め意識的に実践的指導力の向上を図る必要がある。 ・「教育は人なり」教師力の向上がチームとして協働する学校力の向上に繋がる。

事務事業番号＜１２＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	子どもの安心・安全に関する事業	担当部署	学校教育課
事業実績	◇通学路の安全対策 ①　交通量調査の実施（７：40～８：10） ア　大山崎大枝線・町道東西線交差点 【実施日】平成 28 年４月 13 日、７月９日、９月７日 ４月の信号機供用後に調査を実施した。また、９月に古戦橋が両側通行になり実施した。４月、７月は大きな変化はなかったが、９月には古戦橋通過車が約３０％増加した。 イ　町道大山崎円明寺線・町道西法寺里後線交差点 【実施日】平成 29 年３月８日 この交差点は「通学路安全推進プログラム」の対策必要箇所で、以前から地域の方から指摘を受けている。結果を受けて、交差点手前に注意喚起の表示、横断場所に「横断中」の黄色の小旗を設置した。 ②　大山崎町通学路安全推進会議の実施 【実施日】平成 28 年 10 月 13 日 【参加関係機関】京都国道事務所、乙訓土木事務所、向日町警察署、見守り隊代表、PTA 代表、乙訓教育局、建設課、経済環境課、政策総務課、教育委員会 通学路における対策必要箇所の進捗状況の確認と新規対策必要箇所の選定をした。また、合同点検を行い、対策必要箇所の現場確認を実施した。		
成果	継続的な交通量調査を実施し、通過車両数を把握することができた。それにより、表示板設置や横断用小旗の設置など通学路安全確保に向けた施策展開へ繋げることができた。 通学路安全推進会議を開催し、対策必要箇所の状況把握や合同点検を通して、安全対策に向けて関係諸機関と連携することができた。		
課題認識	①　年間を通した子ども安全見守り隊、ＰＴＡによる安全指導の継続的な取組、交通指導員の通年配置、青色パトロール車による防犯活動等、ソフト面では地域ぐるみで連携した安全・安心の確保が浸透しているが、ハード面も含めた道路事情の変化に対応した更なる取組が必要である。今後も関係機関が連携しての継続的な確認と点検、対策の取組が必要である。また、日常を通しての防災、防犯対応も含めた更なる安全教育も必要不可欠である。 ②　毎年、通学安全推進会議を実施し、今後の町内道路状況の変化に合わせ危険箇所の抽出、また必要な安全対策を検討する必要がある。		
評価委員の所見	・大山崎大枝線・町道東西線交差点は４月の信号機設置、９月の古戦橋両側通行の実施とハード面の状況が変化しており、今後も情報の収集を重ね、交通安全に努められたい。 ・雨の降りかたや夏の高温等、近年は自然環境が以前に増して厳しくなっている。このような変化に遅れることのないよう、普段から備えを十分に行い、家庭・地域・行政が連携し、児童・生徒の安全を確保するよう努められたい。 ・児童生徒自身に「自分の身は自分で守る」意識の指導も期待する。		

事務事業番号＜１３＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	幼稚園就園奨励事業	担当部署	学校教育課
事業実績	① 大山崎町私立幼稚園就園奨励費補助金 保護者の町民税の所得割課税額に応じて補助金を交付 （園児１６４人、総額２２,３８６,０００円） ② 大山崎町私立幼稚園児教材費補助金 １０月１日現在、私立幼稚園に在園している３歳以上の園児の保護者全員に交付 保護者に園児１人あたり４２,０００円 （園児１７６人、総額7,３９２,０００円） ③ 大山崎町私立幼稚園設備費補助金 町内私立幼稚園に設備、備品の購入に要する経費に対し補助金を交付 （実績総額１０５,０００円） ④ 大山崎町私立幼稚園心身障害児教育振興補助金 障がいのある幼児の教育に要する人件費に対し補助金を交付 （対象園１、総額４９，０００円） ⑤ 大山崎町乙訓私立幼稚園教会研究補助金 協会が行う教育研究事業を実施するための経費を対象に補助金を交付 （乙訓私立幼稚園協会、総額６５,０００円） ⑥ 第３子無償化事業 多子世帯の保護者の経済的負担を軽減するために補助金を交付 （対象園児１６人、総額２，０４４，８００円）		
成果	① 私立幼稚園児の保護者の経済的負担を軽減することができた。また、引き続き第３子無償化事業を実施し、多子世帯の保護者の経済的負担を軽減し、安心して子どもを生み育てられる環境づくりに繋がった。 ② 大山崎町私立幼稚園設備費補助金を交付することより、私立幼稚園の設備、備品の整備を促進することができた。 ③ 大山崎町私立幼稚園心身障害児教育振興補助金を交付することにより、心身障害児教育の振興を図ることができた。 ④ 教職員の研修会等を支援することにより、幼児教育の振興を図ることができた。		
課題認識	国の基準で交付している私立幼稚園就園奨励費補助金は、平成２８年度において国庫補助金割合が平成２７年度に比べ増加したものの、町の負担が大きい状況にある。 ２５年度私立幼稚園就園奨励費補助金　総額２１,７２４,２００円 （国庫補助金5,２９７,０００円　町単費１６,４２７,２００円） ２６年度私立幼稚園就園奨励費補助金　総額２４,７１０,４００円 （国庫補助金6,１４１,０００円　町単費１８,５６９,４００円） ２７年度私立幼稚園就園奨励費補助金　総額２４,１９０,８００円 （国庫補助金7,０３８,０００円　町単費１７,１５２,８００円） ２８年度私立幼稚園就園奨励費補助金　総額２２,３８６,０００円 （国庫補助金6,８５４,０００円　町単費１５,５３２,０００円）		

評価委員の所見	・就園奨励費補助金は、国庫補助率が減少しているため町の財政負担が大きくなっている。国庫補助率が引き上げられるよう国に要望する必要がある。 ・当該補助金に関する事務が複雑化しており、事務の簡素化も望まれるところである。 ・子どもの貧困が教育に悪影響を与えていることが、社会問題化していることに鑑み、今後も経済的な支援が継続されることを期待する。 ・保育所も含め、保幼小連携の観点から幼児教育内容について指導できる係ができないか。

事務事業番号＜１４＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	学校施設・整備事業	担当部署	学校教育課
事業実績	・大山崎小学校北校舎１・２F トイレ改修工事　等		
成果	・大山崎小学校のトイレ改修等、児童へ良好な教育環境を提供できた。 ・学校施設の老朽箇所の改修を実施し、児童が安全で安心して学ぶことのできる教育環境の整備を図ることができた。		
課題認識	・小学校施設は建築年数が４０年以上と相当経過しており、改修を要する部分が散見されるため、児童が安心して学校生活を送ることができるよう計画的な教育環境の整備が必要である。また、今後の児童生徒数の変化を見極め、計画的な施設整備が必要である。 ・中学校においては中長期的な視点に基づいた計画的な整備を実施し、施設の保全を図ることによって、良好な教育環境の維持に繋げる必要がある。		
評価委員の所見	・小中学校とも、耐震化は完了。両小学校のトイレ改修は、計画的に進んでおり、評価できる。また、空調設備についても、普通教室は全て整備され、良好な教育環境を提供できている。 ・両小学校とも施設の老朽化が進んでおり、改善が必要な箇所が多数ある。広域避難場所に指定されていることもあり、計画的な改善に取り組んでもらいたい。 ・築年数が経てば改善・改修箇所が増えることも予想される上に、給食施設・設備の建築もある。担当係を独立させられないか。		

事務事業番号＜１５＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	ときめきチャレンジ推進事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	４月２３日　　人形劇とブックフェア 参加者:１１０名　協力：竹の子文庫、おぐら文庫 ６月１８日　　スポーツチャンバラ 参加者:１８名　協力：京都府スポーツチャンバラ協会　会員　田中　実　氏 ７月１６日　　３枚の布を大山崎町の色で光らせよう！ 参加者:２９名　協力：京都造形芸術大学 ９月１０日　　かわいいおちょぼクッキーを作ろう 参加者:２３名　協力：ケーキ・菓子創作家　村重　伸一　氏 １０月１５日　大学生のお兄さん・お姉さんと体を使って思いっきり遊ぼう！ 参加者:２４名　協力：京都西山短期大学 １１月１２日　「キミはできるか！？折り紙でキューブを作ろう」 参加者：３０名　協力：須藤　稔恵　氏 １２月１０日　「もうすぐお正月！みんなでたこを作って空高くあげよう！」 参加者：２８名　協力：ときめきチャレンジ推進事業運営委員 １月２８日　　「手を洗ってわがしをたべよう！～ふしぎなライトで手洗いチェック～」 参加者：１８名　協力：乙訓食品衛生協会 ２月１８日　　「ゲームで寒さをふきとばそう！～ラダー・ゲッターとボッチャ～」 参加者:２３名　協力:京都府レクリエーション協会　今西　啓員　氏 ３月１１日　　「みんなでまっ茶とわがしを味わおう！～和の心と春を感じよう～」 参加者:２８名　協力:茶道サークル「友あそび」		
成　　果	・総勢４００名近い児童が本事業に参加し、土曜日を中心とした学校時間外の時間を活用して心身の健全育成に資することができた。 ・例年実施している恒例活動に加え、新しい内容の活動を織り交ぜることにより、定期的に参加している参加者の慢性化を防止しているとともに、参加者の安定的な確保につながっている。 ・社会教育委員の中から事業の講師を依頼し、社会教育関係者の有機的な活用を図ることができた。		
課題認識	放課後の時間の有効活用という観点から、土曜日にとどまらない事業の在り方を模索していく必要があり、２９年度から年４回の平日開催を実施することとしているが、今後の平日開催の拡大による放課後児童クラブとの一体型の取組をいかに推進していくかについては引き続き検討が必要である。		
評価委員の所　　見	・社会教育団体との連携により、様々な企画を立案・実施されていることは評価できる。 ・平日開催されることは喜ばしいことであるが、放課後児童クラブとの一体型の取組み方に十分な検討と工夫をお願いしたい。		

	・運営委員会で平日に２小学校を合同で行うことには様々な調整も必要になろう。放課後の児童の帰宅のさせ方等を考えると運営委員会も含め、学校ごとに行う等、学校側に負担を掛け過ぎない実施方法を検討されたい。

事務事業番号＜１６＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	青少年体験教室	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	歴史体験教室 ８月１９日 結団式・お城見学（場所：町立中央公民館・滋賀県彦根市彦根城） 参加者：４名　　協力：大山崎町歴史資料館　館長 １２月４日　山崎城探索（場所：宝積寺・酒解神社・山崎城等） 参加者：２名　　協力：大山崎町歴史資料館　館長 ２月１９日　クラフト及び資料館見学（場所：大山崎ふるさとセンター） 参加者：４名　　協力：大山崎町歴史資料館　館長 ３月３０日　整理室体験及び解団式（場所：大山崎町文化財整理室・町立中央公民館） 参加者：４名　　協力：生涯学習課　文化芸術係		
成果	・旧事業を更新するかたちで平成２７年度から実施している体験事業で、２８年度においては当初の申込者６名が１年間を通じて「歴史」をテーマとした体験学習を受講した。事故や怪我なく、体験を通した有機的な学習を提供することができた。 ・町外の歴史的建造物を見学することで文化遺産への関心を深め、町内の文化遺産への関心へつなげることができた。また実際に天王山に登ったり、文化財整理室の作業に携わり、大山崎町の文化遺産に自らの手で触れて作業したりすることで、大山崎町を天王山と歴史の町としての印象付けや郷土を愛する心を育むことができた。		
課題認識	申込者の総数が６名と少数であるため、活動の内容や参加費、広報の方法等に検討の必要がある。		
評価委員の所見	・ジュニアリーダー養成講習会からの方向転換２年目であるが、昨年同様参加者が少ない。もう少し、参加者が見込める事業の実施を望みたい。 ・参加対象者（小学４年生～中学３年生）のニーズ調査を行ってみる等、事業の内容を十分精査し、毎年事業を変更する必要があるか、通年にする必要があるかも含め、今後の事業のあり方を検討されたい。 ・参加者が６名と少数であり、参加対象、参加費、広報の方法等についても検討が必要である。		

事務事業番号＜１７＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	人権教育・啓発の推進事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	大山崎町人権教育研修　９月１日 演題：「誰もが暮らしやすい社会を目指して」 場所：中央公民館 参加者：　７１名 大山崎町人権教育研修　１２月７日 演題:「対話を通してつくる共生社会　～障害者差別解消法と府の条例を活かして～」 場所：中央公民館 参加者：　７７名		
成果	個性・環境・文化・価値観が異なる人々が、共に生きる（暮らす）ためには、たくさんの人々が理解を深めることが大切であることから、毎年多くの参加者がある当該研修について継続的な実施が図られた。		
課題認識	すべての“人権問題”の解決に向け、人権尊重を日常生活の習慣として身に付けるために、さらに継続的に学ぶ機会を提供する必要がある。		
評価委員の所見	・障害者差別解消法の施行に伴い、合理的配慮の必要性などが話題となっているが、多くの学習機会を設けて人権啓発に努められたい。 ・毎年８月の人権強化月間に合わせて開催されている本事業は、人権問題を考える良い機会となっており、今後も継続して実施されたい。 ・人権問題をいろいろな切り口から考えることは大切であり、研修会を年２回と固定せず、多くの学習機会を設けて人権意識の高揚に努められたい。また、参加者の裾野を広げることも必要か。 ・各学校のＰＴＡ研修の中に「人権研修会」が位置付いているか。さらに、この事業を学校教育との連携で進められないか。		

事務事業番号＜１８＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	大山崎町成人式事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	第６４回大山崎町成人式　　平成２９年１月９日 第１部　式辞、祝辞、くす玉割り、新成人の誓いの言葉、祝電、ビデオレター、集合写真 第２部　なし 会場：町体育館 スタッフ　前日９名　／　当日１７名 第２部実行委員　応募者なし 商工会マスコットキャラクター（着ぐるみ）ララン出演 町内新成人：対象１７３名　出席１１１名　　出席率６４．１％ 町内外合わせた出席数　男５２名　女７８名　　総数１３０名 記念品：天王山キャンドル （社会福祉法人白百合会　障害者福祉施設　リ･ブラン京都製作） ・誓いの言葉発表者は、中学校３年生当時の学年主任と担任の先生と相談し、候補者（男・女）に直接依頼		
成果	・実行委員の応募はなかったが、くす玉割りやビデオレター、ララン（着ぐるみ）の出演など、大山崎町らしい温かな成人式を実施することができた。内容は参加者にも好評に感じた。 ・誓いの言葉の発表者には、教委の依頼を快く引き受けていただき、この機会を得たことに対するお礼を述べられた。 ・怪我人や場を乱すような参加者はおらず、円滑に執行することができた。		
課題認識	・課をまたがってスタッフがかかわる為、準備や運営等について、最終確認と情報の共有が不可欠。 ・来場時は集中して混雑するため、一時的にスタッフの人数に余裕がなくなる。		
評価委員の所見	・出席率が高い数値を示しているのに参加者からの実行委員がなかったのは残念である。実行委員会形式での第二部の復活を期待したい。 ・中学校で学んだ頃の同窓会的な役割も担っており、参加してよかったと思えるような事業の実施が望まれる。		

事務事業番号＜１９＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	男女共同参画事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	◆　大山崎町第３次男女共同参画計画「みとめ愛プラン」策定 （平成２９年３月） ＜策定に係る事業など＞ ・８月～９月　関係課に対する事業調査 ・８月３１日　大山崎町男女共同参画計画懇話会（第１回） ※　大山崎町男女共同参画計画懇話会委員：９名 ・９月　８日　男女共同参画講座（講座・ワークショップ）参加：１０名 講演「みんなで考える男女共同参画講座」 講師　公益財団法人 京都市男女共同参画推進協会 事業企画課　久保 智里　氏 テーマ　男女共同参画の基本について ・２月　２日　大山崎町男女共同参画計画懇話会（第２回） ・３月　１日　～　３月１５日　パブリックコメントの実施 ・３月２３日　大山崎町男女共同参画計画懇話会（第３回） ・計画冊子及び概要版（リーフレット）は、京都府をはじめ、議員や関係団体、学校、企業等に送付		
成果	・本計画を策定するにあたり、各教育機関・団体など多方面から委員を選任し、懇話会を開催すること等により、幅広く住民の意見を反映することができた。また、懇話会やワークショップ、パブリックコメント等の実施自体が、事業にかかわる委員や町民の方々にとって男女共同参画について考えるきっかけとなっている。 ・庁内各課の男女共同参画に係る取組状況についての進捗状況の把握と見直しを実施した。		
課題認識	・今後も本計画について町民に広く周知し、啓発を進めること等により、地域の方が男女共同参画を自らの課題として考え、互いに協力し合うことができるように努める必要がある。 ・年度ごとに計画の進捗や数値目標を把握し、課題に対する事業の見直し・検討のほか、職員等に対する研修が求められる。		
評価委員の所見	・新たに策定された第３次男女共同参画計画を、広く町民の皆さんに知ってもらえるよう広報されたい。 ・６つの基本理念を基に、庁内推進体制を整備し、町民との協働による推進に努められたい。 ・ネーミングが良い。懇話会等手順を踏んで策定された。今後推進するに当たり、啓発として何か事業化した方が意識付くのではないか。		

事務事業番号＜２０＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	ホストタウン事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	１　役場庁舎内にホストタウンに関する常設の展示コーナーを設置 平成２８年１０月～（３ヵ月ごとに更新） ２　ホストタウン認定を記念した国際理解講座 ①9月１７日（土）スイスの文化と歴史について　参加：３８名 ②9月２４日（土）スイスの言葉について　参加：３０名 ③１０月１日（土）スイスの家庭料理について　参加：３１名 ３　平成２８年度大山崎町ジュニアスポーツ派遣事業 １１月１９日（土）～２０日（日）　参加：17名 ①オリンピアンによる講話 ②大学生とのスポーツ交流 ③大学施設見学 ④救急救命講習 ⑤大学教諭によるストレッチ講習 ４　大山崎町スイスフェア２０１６　１２月１８日（日）　参加：約３００名 ①開会セレモニー ②アルプホルン演奏会等ステージ企画 ③スイス関連物販（食器等雑貨、スイス菓子、スイス料理とワイン） ④お抹茶席 ⑤その他（啓発グッズの配布、事業紹介展示　等） ５　給食でスイス料理を提供　平成２９年１月～６月の各月１回 １月は町内の全町立小学校（２校）で実施。加えて、庁内の全町立保育所（３園）でも2月から実施。 ６　大山崎町ホストタウン認定事業　パラリンピアン講演会（オリンピック・パラリンピック教育推進校認定事業講演会）2月4日（土）参加：約２６０名 対象　大山崎中学校生徒 講師　元プロ車椅子バスケットボール選手パラリンピアン岩野博氏 演題　「チャンスのつかみ方」 ・学校の「土曜活用の時間」に位置づけ、１年生、２年生の全生徒が参加 ・事前学習として福祉体験学習（フィールドワーク）、事後学習として感想文の提出等を併せて実施 ７　オリンピアンに学ぶフェンシング講座　3月5日（日）　参加：５０名 講師　ロンドンオリンピック、フェンシングフルーレ女子日本代表 池端花奈恵氏（現、乙訓高等学校教諭） 内容　インタビュー、フェンシングの実技		
成果	・ホストタウン認定記念キックオフイベント「大山崎町スイスフェア２０１６」は多数の来場者があり盛況裏に終えることができた。東京オリンピック・パラリンピックに向けた気運の拡大に資することができた。 ・ホストタウン相手国スイスの文化（食・民族・音楽など）の理解が深められた。 ・事業を通じ大山崎町とスイスとの繋がりを住民の方々が身近に感じるきっかけとなった。		

成　　果	・「ジュニアスポーツ派遣事業」では、主にスポーツをしている児童が参加者の大半を占めた。オリンピアンの講話やスポーツ交流等の活動を通して、スポーツに対する関心や意欲を深めることができた。 ・「パラリンピアン講演会」では、普段体験できない車椅子バスケットボールを体験することで障がい者スポーツに対する理解が深められた。 ・「オリンピアンに学ぶフェンシング講座」では、ユーモアを交えながら各種目についてわかりやすく講師が説明され、フェンシングに対する理解が深められた。
課題認識	・関係団体と連携を取りながら情報の共有化と事業全体像の早期構築を進めていく必要がある。 ・外国の料理を給食献立に取り入れることは、施設・設備や嗜好面などから忠実に再現することが難しい。 ・企画を実施するにあたり、オリンピアン、パラリンピアンといった方々の講師謝礼の適正価格の見極めとスケジュールの調整が困難。 ・派遣事業における日程の確保や過密行程に係る参加者への配慮が困難。
評価委員の所　　見	・ホストタウンとして、ジュニアスポーツ選手の派遣、オリンピアン・パラリンピアンとの交流、あるいは相手国スイスの文化の紹介など、様々な取組をされており評価できる。 ・2020 年に向けてオリンピック・パラリンピック教育としても継続可能な取組にし盛り上げてほしい。 ・フェンシングのホストタウンが他市にあれば情報交換等、連携されたい。

事務事業番号＜２１＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	放課後児童クラブ運営事業	担当部署	生涯学習課 （生涯学習・スポーツ振興係）
事業実績	放課後児童クラブの開設（５クラブ） なかよしクラブ１・２、ともだちクラブ、でっかいクラブ１・２ ①小学校の児童数が減少する中、放課後児童クラブへの入会児童の割合は近年高い率で推移しており、本事業の社会的な役割は大きくなっている。 ②障がいのある児童についても、児童の状況を保護者と協議しながら、指導員の加配体制を整え、可能な限りの受け入れを行った。 ・入会対象児童　：町内在住の小学１年生～４年生（支援が必要な児童のうち、在籍実績がある児童については５，６年生も入会可） ・平日（月～金）　：下校時から午後６時 ・土曜日　　：午前８時３０分から午後６時 ・長期休業日（夏季を含む。）及び振替休校日 　　：午前８時３０分から午後５時３０分 【平成２９年３月末現在各クラブの在籍児童数】 １）なかよしクラブ１　・・・・・　４１人 ２）　〃　　２　・・・・・　６６人 ３）ともだちクラブ　・・・・・　３０人 ４）でっかいクラブ１　・・・・・　３８人 ５）　〃　　２　・・・・・　３６人　　計　２１１人 （前年２０１人）		
成果	年間を通したプログラムに基づき、異年齢の集団生活を通じて入会児童の健やかな育成を図ることができた。また、保護者に対しては、児童の安心・安全な居場所として、家庭に代わる生活の場を提供することができた。		
課題認識	・子どもの生活の連続性を確保するために、また、でっかいクラブの余裕教室内への移転を踏まえ、国が唱える学校との連携は今後の事業運営に重要な要素である。 ・「大山崎町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」に沿った関係例規等の整備が必要となっている。 ・安全・安心な保育をより一層徹底するための新たなルール作り、事業内容の見直しが求められる。 ・加配を要する児童を保育する加配指導員の配置は、放課後児童クラブ運営の大切な要素だが、そういった児童の入会希望があった場合の加配指導員の早急な確保が困難である。 ・年度ごとの各クラブの児童数の増減が激しく、入会児童数の正確な予測が困難である。 ・保育の中での学習時間確保の最適な方策について検討が必要である。		

評価委員の所見	・平成２９年度から実施予定のときめきチャレンジ事業と時間が重複するため、児童の負担とならないよう十分な調整が必要である。 ・入会児童が増加傾向にあることからも、この事業の必要性が伺える。「保護者が安心して働く、児童も健全に育つ」ために必要な施設。遊びの要素と学習の要素をバランス良く配する保育が望まれることからも専門知識を備えた指導員の確保・養成が必要である。 ・危機管理・保育内容について指導者の研修も必要である。現在の研修履修状況はどの程度か。 ・今後は５年生・６年生も入会してくる可能性があり、施設も含めた総合的な計画性が必要である。 ・児童が学校の人間関係を放課後児童クラブに持ち込んだり、逆にクラブの人間関係を学校に持ち込んだりすることがあるので、情報共有という意味でも学校との連携は必要である。

事務事業番号＜２２＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	公民館管理運営事業	担当部署	生涯学習課 （中央公民館）
事業実績	施設の貸出業務使用許可、施設の維持管理 一般使用団体は、２カ月前から当日までに使用申請受付（サークル登録団体の使用申請は、３カ月前の２０日から受付） 【使用申請後のキャンセル】 ・キャンセルは、使用予定日から７日前までは８割返金、それ以降は返金しない。 【利用変更】使用申請後の変更 ・使用予定日の３カ月後の末日まで変更可能。ただし１回のみとする。 【休館日】毎週月曜日、年末年始（12 月 28 日から翌年の１月４日まで） 【開館時間】８時 30 分～21 時 30 分まで 【公民館施設管理】 ・保守点検業務の委託（清掃、警備、冷暖房、電気工作物、 消防設備、自動ドア、建築業務等） 耐震不足による施設の一部を閉鎖 本館の一部が現在の耐震基準を満たさないため、利用者の安全確保を優先し、本館ホール、エントランス部分等を平成 28 年５月から閉鎖。 ＜利用状況＞ 中央公民館開館日数　３０７日 中央公民館利用件数　２，９１５件 中央公民館施設利用率　３３．６％ 中央公民館利用者数　４１，５６１人 １日当たり（平均）　１３５人		
成果	利用者に固定化の傾向が見られるが、町民の身近な学習施設としての役割を果たしている。		
課題認識	ホールの閉鎖に伴い、利用者が減少している。今後の施設更新の方策等を検討し、公民館施設のサークル活動や学習しやすい環境の整備を図る必要がある。 町民の多様な学習ニーズに対応する公民館の管理や運営について検討が必要である。		
評価委員の所見	・ホールの閉鎖による利用者の減少は残念であるが、町民の身近な学習施設であり、今後も利用しやすい環境の整備が望まれる。 ・周辺施設を含む公民館の改修計画が進んでおらず、先の見通しがつかない。現在の建物はかなり老朽化しており、早期の計画作成が必要である。		

事務事業番号＜２３＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	各種公民館講座事業	担当部署	生涯学習課 （中央公民館）
事業実績	＜各種公民館講座＞ ５月２６日　　米粉お料理講座 参加者：１１名　　講師：佐藤　真季　氏 １０月２６日～１１月１９日（全４回）　助け愛隊サポーター養成講座 参加者：９３名　　講師：・地域包括支援センター ・梅山　信　医師 １１月２６日　干支絵付け体験教室 参加者：２４名　　講師：田村　博文　氏 １月２８日　　パーソナルカラー講座 参加者：　９名　　講師：宇野　菜央子　氏 ３月２５日　　錫（すず）の豆皿手づくり講座 参加者：１３名　　講師：中元　司　氏 ＜図書館事業＞ ４月２３日　　人形劇とブックフェアー （内容）人形劇「金のたい」 参加者：１１０名　出演：ミニシアターまる　中島香織　氏 ※ブックフェアー…よく読まれている本や読み聞かせにお勧めの本（図書室から１５０冊）をご紹介しました。		
成果	多くの町民の学習意欲・仲間づくりに答えるため、必要な施策であり効果は果たしていると考える。より多くの町民に幅広い公民館講座をお手軽に受講してもらうべく事業の展開を行った。		
課題認識	新しい公民館講座の取組みも始めたが、受講生が少数の教室もありました。多様な学習機会の提供に向けた取り組みが必要であり、生涯学習の重要性をアピールし、更なる講座等の充実を図っていくためには、極力予算が掛からない方法を模索し実施していくが、その中でも必要な予算の確保も重要な課題である。		
評価委員の所見	・幅広い年代の参加を促す事業は難しいにしても、学習参加可能な時に講座が用意されていることは有り難いはず。予算、講座内容、広報等を検討し、さらに講座事業が充実していくことを期待する。 ・町民の学習ニーズの把握の仕方を検討してはどうか。		

事務事業番号＜２４＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	子ども体験教室事業	担当部署	生涯学習課 （中央公民館）
事業実績	＜子ども体験事業＞ 7月２１日・２８日・8月４日　夏休み子ども陶芸教室 参加者：２５名　　講師：山崎　正裕　氏 7月２７日・8月３日　ジャグリング体験教室 参加者：２１名　　講師：末吉　正和　氏　他 8月１９日　身近な科学遊び教室 参加者：２２名　　講師・協力者：長岡京市環境の都づくり会議 8月5日　　夏休みトールペインティング教室 参加者：３０名　　講師：坂本　依真里　氏 １１月２８日　電池手づくり教室 参加者：１０名 講師：日立マクセルエナジー（株）東出裕子氏　他３名		
成果	子どもたちの好奇心をくすぐる各種体験事業を実施することで、自主性、協調性等をはじめ、多様な感動体験活動の場の提供ができた。		
課題認識	新しい教室を開拓し、実施することも重要ではあるが、現在実施している教室は大変人気があり、募集開始して直ぐに定員が埋まる状況です。このことから継続して実施することの大切さも考慮し、効率的・効果的な教室を研究していく必要がある。		
評価委員の所見	・子ども体験教室事業は、子ども達が初めて体験する企画がほとんどであり、興味を持って接することのできる良い機会であり、今後も継続して実施されたい。 ・可能な限り多くの参加者を見込める取組にするには、日程、内容等、調整・検討が必要。地域や学校との連携で啓発することも必要である。		

事務事業番号＜２５＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	文化のつどい事業	担当部署	生涯学習課 （中央公民館）
事業実績	・１１月６日　町中央公民館で開催 ・大山崎町社会教育関係団体が一斉につどい、ジャンルを超えた連携・交流を深めながら日々の活動成果を発表するとともに、心のふれあいを深め、地域文化の振興を図った。 ・地元の小中学生による作品展示や英語学習発表、地域の中高生による吹奏楽の演奏、一般住民作品展示、行政展示、ＰＲコーナーなど。		
成果	・天王山「ゆひまつり」と同時に開催したため、立地的にも老若男女多くの参加があり、地域の中高生の吹奏楽部の演奏は好評であった。 ・児童・生徒の作品展示や社会教育団体等の日頃の活動の成果を発表する機会となった。		
課題認識	・文化のつどいを単独開催した場合の集客には課題がある。 ・社会教育団体等の活動の展示についても、会員の高齢化により、資材の搬入や会場当番等の役割分担が負担になっているとの声も年々大きくなっている。開催する場合は、多くの人が集えるような企画が必要である。		
評価委員の所見	・文化のつどいは、町民の様々な活動の発表の場となっており、今後も継続して実施されたい。 ・日々の活動成果を発表する側からも、多くの人が集えるような工夫が今後も必要である。 ・文化的なイベントを一体的に行うと、調整はご苦労されるが、活気は出る。単独開催の必要性がなければ、また、社会教育団体のニーズがあれば。今後も同時開催されると集客が見込まれる。		

事務事業番号＜２６＞　　（平成２８年度度事業）

事務事業名	公サ連まつり事業	担当部署	生涯学習課 （中央公民館）
事業実績	「第 17 回公サ連まつり」は中止 　中央公民館を拠点に活動する文化サークルの会員らで組織する公民館サークル連絡協議会が主催し、舞台発表や作品展示など、サークル相互の親睦、連絡調整、情報交換や平素の練習成果の発表のため、毎年開催されてきた「公サ連まつり」であるが、平成 28 年度は中止となった。 　これは、舞台発表面で使用する本館の「ホール」が５月以降閉鎖となったため、隣接する小学校の体育館等の代替え施設での実施を検討されたが、中止の判断となったもの。		
成果	・「公サ連まつり」は、各サークルの普段の活動や練習の成果を発揮する場として、これまで実施されてきたもの。 ・主催者である公民館サークル連絡協議会の役員の間で、実施するかしないかを十分検討されたが、苦渋の選択となったもの。		
課題認識	公民館ホール閉鎖のため中止になったが、小学校施設等を活用した開催方法についても模索した。 普段の活動だけではなく、発表の場を与えてほしいという要望を受け、今後の全庁的な公共施設の整備計画の中で、公民館としても検討を深めていきたい。		
評価委員の所見	・生涯学習の発表の場があることは大切である。学び、学んだことを生かすことは生涯学習の基本であり、さらなる充実・発展を望む。 ・文化サークルの発表の場である公民館ホールが閉鎖されており、早期のハード面での整備が望まれる。		

事務事業番号＜２７＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	図書室運営事業	担当部署	生涯学習課 （中央公民館）
事業実績	**中央公民館図書室図書館運営事業** ①図書の貸出、返却、発注、受入、整理、保管義務 ②図書の貸出に伴う予約、リクエスト、調査・相談業務 ・**貸出者**＝町内に在住または在勤の者 ・**冊数**＝１人６冊まで ・**貸出期間**＝２週間まで ※本図書室は、京都府図書館総合目録ネットワークシステム「ケイ・リブネット」と提携 **【読みたい本が見つからないときは】** ・予約・リクエスト可能 ・当図書室に本がないときは他の図書館からの借用が可能 ・パソコンを利用して検索可能 **【開室日と時間】** ・火曜日～金曜日…貸出時間は午前１０時～午後４時４５分 ・土曜日、日曜日、祝日…貸出時間は午前１０時～午後４時１５分 ※休室日は、毎週月曜日、毎月最終木曜日、１２月２７日～１月４日、その他特別整理期間 ＜図書室開室状況＞ 開室日数　２８８日 蔵書数　３５，３８２冊（一般書 22,537 冊　児童書 12,845 冊） 貸出者数　２０，３８９人 貸出冊数　６７，７１６冊		
成果	利用者のニーズに合った開館状態 ・管理者、利用者共に利用しやすい図書館システムの運営 ・情報提供を速やかに行うための資料管理 ・読書活動の普及、推進のための事業の実施・公民館図書室の利用 サービスの運営事務ができた。		
課題認識	京都府南部地域で小さな図書室の１つで、利用者は減少傾向にあります。これは、全国的な傾向となっており、デジタル機器の普及による活字離れが主な要因と言われています。これに対し、今後どのように対応していくかが大きな課題です。		
評価委員の所見	・京都府図書館総合目録ネットワークシステムとの提携により、図書室にない本も予約・リクエストすることにより利用できることは喜ばしいことである。 ・今後も利用者のニーズにあった事業の実施が望まれる。 ・デジタル機器の普及による活字離れへの対応は、今後の大きな課題である。 ・閲覧室の拡大は当面、公民館の一部を開放する等で対応し、根本的には公民館施設等と併せて検討していく必要がある。		

事務事業番号＜２８＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	体育館管理運営事業	担当部署	生涯学習課 （生涯学習・スポーツ振興係）
事業実績	・大山崎町体育館の利用について、利用団体数（延べ）で１，７７２件、利用者数が５６，３６３名あり、無料大型駐車場を備えた町内スポーツの本拠として年間を通じて町内外を問わず多くの利用がある。 ・フェンシング会場として全国的に非常に有名である。		
成果	・大山崎町体育館は年々利用者数が増加している。利用率は７４．５％であり、平日の午後以外の空き時間帯はほぼ無い状況である。 ・町体育館のみで年間７００～８００万円以上の使用料収入がある。		
課題認識	・大山崎町体育館については、開館２９年目を迎え建物の老朽化が進み、特に屋根からの雨漏りが頻繁に起こる状況にあり早急な改修が必要であるが、２９年度の大規模改修の中で修繕対応を行う。 ・大規模改修に伴い２９年８月～３０年３月の８カ月間全面閉館となるため、その間の利用者の代替施設利用への援助措置等が求められる。 ・大規模改修において大体育室に空調を新設するとともに、３０年度にリニューアルオープンすることを受け、空調の利用料金を含めた体育館使用料全体の見直しが求められる。 ・リニューアルオープン後、体育館の運営体制について指定管理の導入を見据えた検討が求められる。		
評価委員の所見	・天井の雨漏り改修はもちろんのこと、空調設備やバリアフリー化工事（エレベーターの設置、トイレの改修等）が実施されることは喜ばしいことであり、今後も町民のスポーツの拠点としての利用に応えてもらいたい。 ・リニューアルした施設であり空調設備も使用可能となり、指定管理の導入を見据えた使用料の適切な見直しの検討が必要である。		

事務事業番号＜２９＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	大山崎町天王山カップ 少年少女フェンシング大会の開催	担当部署	生涯学習課 （生涯学習・スポーツ振興係）
事業実績	【経過】 ・昭和 63 年に開催された「京都国体」におけるフェンシング競技会場の舞台となった大山崎町体育館は、翌年の平成元年から「ポスト国体」として「大山崎町長杯少年フェンシング大会」を開催。以後、開催は回をかさねて、平成 17 年度から「全国少年フェンシング大会」へと発展した。 ・一方、全国大会へと発展した少年フェンシング大会とは別に、冬休み恒例となっていた町長杯少年大会を「大山崎カップ少年少女フェンシング大会」として地元有志の皆さんの力で継続されることとなった。 ・平成 17 年に第 1 回大山崎カップ少年少女フェンシング大会を初回大会とし、平成 27 年 12 月まで計 11 回にわたって継続された。 ・平成 28 年度は本町にとって、2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けた「ホストタウン推進事業」元年。“フェンシングのまち大山崎”として地域の活性化を図るとした大山崎町第 4 次総合計画をふまえ、「勝負の聖地」にふさわしい天下分け目の天王山を冠に「大山崎町天王山カップ少年少女フェンシング大会」と大会名称を変更し、実施主体については、大山崎町を中心とした実行委員会形式で開催することとした。 【大会概要】 日時＝平成 28 年 12 月 25 日（日）　9時～18 時 会場＝大山崎町体育館 競技種目＝フルーレ個人戦　※以下のカテゴリ（学年区分、男女別） 小学生１・２年　男子の部＝30 人　女子の部＝11 人 小学生３・４年　男子の部＝55 人　女子の部＝35 人 小学生５・６年　男子の部＝68 人　女子の部＝48 人 中学生　男子の部＝112 人　女子の部＝63 人 参加者合計＝422 人 カテゴリ毎に 1 位～3 位を表彰した		
成果	・大山崎町天王山カップ少年少女フェンシング大会と名称を変更して初めての大会で、全国からの参加者が熱戦を繰り広げた。 ・「勝負の聖地・天王山」をピーアールするとともに、前日の交流戦では地元企業からの支援で各種の記念品を与えることができた。 ・車いすフェンサーとも剣を交える「オールフェンサーズマッチ」も開催することが出来、健常者と障害のあるフェンサーの交流のひとときとなった。		

課題認識	・準備に関して、町がかつて主催していた全国少年大会のノウハウを活かして、スケジュール、人員体制、準備物等を整理し、マニュアル化（手順化）することが求められた。 ・当日の運営に関して、試合結果と表彰状の作成の間での連絡ミスや、必要以上に時間を要してしまったことから、今後は競技会場スペース内に表彰状を作成する場所を確保すべきとした。 ・大会会場となった町体育館には、開館前の早朝から選手らの荷物を降ろす車両等でごったがえしたため、荷物の積み下ろし場所や駐車場の位置を要項に記載し、事前周知に努める必要がある。
評価委員の所見	・平成元年から始まった「大山崎町長杯少年フェンシング大会」が「大山崎町天王山カップ少年少女フェンシング大会」と名称を変えて復活した感があるが、全国の少年少女フェンサーにとっては嬉しいことであり、今後も関係者と協力して大会を盛り上げていただきたい。 ・全国大会を催すことは多くの町職員の力が必要であることから、職員の過重な負担とならないよう計画されたい。 ・ホストタウン事業の一環としても位置付く。一定のマニュアル作りは必要である。

事務事業番号＜３０＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	スポーツ振興事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	各種大会の開催を大山崎町体育協会へ委託し、実施している。 ＜大山崎町体育協会事業＞ 第３１回おはようゲートボール大会（雨天中止） ７月１７日　町民ソフトバレーボール大会 参加者　１３８名 ８月２８日　町民ソフトボール大会 参加者　１８５名 ９月４日　家庭婦人バレーボール大会 参加者　４４名 １０月１０日　第５５回町民体育祭 参加者　約３，０００名 １１月１１日　ダブルス卓球大会 参加者　２０名 １１月８日　町民グラウンドゴルフ大会 参加者　１６４名 １２月４日　町スポーツ少年団交流大会 参加者　１５２名 ３月１２日　体協ジョギング大会 参加者　４５名 ◇京都府民総合体育大会への参加 １２競技　参加者　１１７名 ◇町スポーツ少年団の育成 ９単位団　登録者　２４６名 ◇乙訓地区体育協会連絡協議会研修会 １１月２６日　参加者　３６名		
成果	・大山崎町スポーツ振興の大黒柱である体育協会は、少ないスタッフであるにもかかわらず、町民体育祭をはじめ、ソフトバレーボール大会、ソフトボール大会、グラウンド・ゴルフ大会を地区対抗形式をとり毎年開催している。 ・体育協会加盟団体が自ら主催する各種大会も多数開催し、２８年度は新たにジョギング大会を実施した。町民にスポーツや運動する機会を提供し、町民の健康の保持・増進や地域の交流・親睦・絆の一助となっている。		
課題認識	町全体に少子高齢化が進み各種大会・イベントを開催しても参加者が緩やかではあるが減少してきている。今後は「する」スポーツの機会だけではなく、「見る」スポーツの分野の機会を提供していくことも必要と考える。		
評価委員の所見	・これらの事業は、大山崎町体育協会の協力を得て町民のスポーツ振興に大きな役割を果たしてきたが、少子高齢化により参加者が年々減少している。健康寿命を延ばす上でも、今後は町民のニーズにあった企画を検討していく必要があるのではないか。		

事務事業番号＜３１＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	総合型地域スポーツ事業 （わくわくクラブおおやまざき）	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	＜わくわくクラブおおやまざきの事業＞ ①各種スポーツ教室　　１３種目教室 参加者　　１６４名 ②春のハイキング（高槻摂津峡公園、高槻市立自然博物館） 参加者　　１８名 ③カヌー教室（京都府京丹波町和知） 参加者　　３３名 ④秋のバスツアー（宮津市、舞鶴市） 参加者　　４１名 ⑤クリスマスイベント 参加者　　１２１名 ⑥スキー・スノボ教室（スイス村・１泊２日） 参加者　　３２名 ⑦設立１０周年記念イベント 参加者　　７４名 ⑧サタデーナイト（年間１７回） 参加者　　５２６名 ⑨ソフトボール大会 参加者　　６０名 ＜合計＞　参加者　１，０６０名		
成果	・町スポーツ少年団や大山崎中学校の部活動等にスポーツ教室の指導を依頼しているため、つながりが継続している部分も多くあり、とくに近年スポーツ教室をきっかけにその部活に入部するという事例も増えてきている。 ・イベントに関しては、安定した参加人数を確保できている。また参加者の多くがイベント等に協力的で、非常にスムーズにイベントを進行できている。 ・青年リーダー会「ゆうやけ」が中心となって実施した「ジュニア・リーダー養成講習会」では参加者が 5 名と少なかったものの、実施した内容に対して自主的に考えて、自分の意見をしっかり言えるようになる等、実りあるものとなった。		
課題認識	・スタッフは増えたものの、現在中心となっている「ゆうやけ」スタッフの多くが大学４回生となり、３０年度以降スタッフが減少することが考えられる。スタッフ間の引き継ぎと、人材発掘が必要になる。 ・町教育委員会との話し合いの場を多く持ち、連携を深めていくようにし、本団体の発展に繋げていく。 ・29 年度、活動場所や事務局となっている大山崎町体育館が大規模改修に伴い長期閉館することに伴い、スポーツ教室の回数の減少や実施不可なイベントが生じる。３０年度以降の会員数、イベント参加人数の維持・増加への工夫が必要となる。		
評価委員の所見	・参加者が減少することなく、事業が実施できていることはスタッフの努力によるところが大きく、今後も地域と連携しながら継続して実施されたい。 ・スタッフの確保については、青年リーダー会に頼らず確保できるよう、新たの施策が必要ではないか。		

事務事業番号＜３２＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	スポーツ団体育成事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	町体育協会及び総合型地域スポーツクラブ（わくわくクラブおおやまざき）加盟の団体に対する指導・助言を行っている。 ◇スポーツ団体(７団体) ・バレーボール連絡協議会　３チーム　５８名 ・バドミントン協会　６チーム　９８名 ・ゲートボール協会　１チーム　１２名 ・グラウンド・ゴルフ協会　１チーム　６０名 ・軟式野球連盟　１０チーム　１５７名 ・ニュースポーツ協会　１チーム　３４名 ◇総合型地域スポーツクラブ ・わくわくクラブおおやまざき　１１１名 ◇スポーツ少年団　９単位団　２４６名		
成果	・加盟団体の若干の減少傾向は見受けられるが、それぞれの団体で活発に活動されている。 ・スポーツ団体については、府民総合体育大会市町村対抗競技への参加をはじめ、それぞれの団体主催の事業も多数開催されている。 ・総合型地域スポーツクラブ（わくわくクラブおおやまざき）は、小学生や大人を対象とした各種スポーツ教室や季節ごとにハイキングやカヌー教室等のイベントを開催し、一定の参加者数を得ており、また定員いっぱいになるほどの人気のイベントもある。 ・スポーツ少年団は、京都府下でもトップクラスの加入率であり、小さい町ではあるが、子どものスポーツ活動は盛んである。		
課題認識	・加盟チーム数の減少傾向が見られる。加盟会員の高齢化が進みつつあり、また、少子化によるスポーツ少年団員の緩やかな減少傾向がみうけられる。 ・それぞれの団体を運営される方（代表者）や、技術指導者のさらなる資質の向上を研修会、講習会等に参加されることで求めたい。 ・それぞれの団体の活動場所・施設の不良個所の整備等が早急に求められる。 ・大山崎町体育館の大規模改修に係る長期閉館に伴い、学校体育施設利用に係る利用者間のトラブルを未然に防ぐ必要がある。		
評価委員の所見	・多くの団体が育成されている。スポーツ少年団も加入率が高い。健全なスポーツの在り方のためにも指導者・代表者の研修が行われると良い。 ・大山崎町体育館の大規模改修に係る長期閉館に伴い、団体のモチベーションを下げないよう学校体育施設利用にかかる一定のルールの作成が求められる。		

事務事業番号＜３３＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	スポーツ推進委員育成事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	スポーツ基本法に基づき現在１０名の委員を委嘱している。 スポーツ推進委員は、町体育協会事業への指導・助言や総合型地域スポーツクラブ（わくわくクラブおおやまざき）への指導・助言を行っている。 また、近畿・府・乙訓のスポーツ推進委員研修会等への積極的な参加により個々の指導力の向上を図っている。		
成果	スポーツ推進委員が大山崎町のスポーツ振興事業の企画・運営に携わることにより、町体育協会等が開催する各種大会、イベントがスムーズに運営できている。 イベント等の運営に携わることで、町民の地域の交流・親睦・絆の一助となっている。		
課題認識	現在３名の欠員があり、地域性や専門性を考慮し、早急に補充する必要があると考える。 スポーツ推進委員の高齢化が進んでいるため、20 代～30 代の委員を登用し、若返りを図る必要がある。		
評価委員の所見	・町民のスポーツ振興に、スポーツ推進委員の役割は重要である。スポーツ団体や総合型地域スポーツクラブへの助言のためにも、優れた人材の確保が望まれる。 ・「スポーツを愛する人が多くいる大山崎町」のイメージがある。推進委員の補充の手立て、道筋を一定ルール化できないか。		

事務事業番号＜３４＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	各種スポーツ施設開放事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	＜施設別の利用件数／利用者数＞ ・桂川河川敷公園の開放 利用件数　１７２件　利用者数　７，925名 ・岩崎運動広場の開放 利用件数　１７７件　利用者数　１，０３２名 ・町内小中学校体育施設の開放 利用件数　１，００４件　利用者数　２０，６５１名		
成果	桂川河川敷公園、岩崎運動広場、特に小中学校体育施設については、町民のスポーツ活動の中心的な役割を果たしている。		
課題認識	・大山崎小学校グラウンド夜間照明施設の電球切れ、安定器の機能低下等で少し暗く、タイマー機能の不良があり、今後の使用に大きな支障が見込まれるので、早急の改善が求められるところであり、２９年度中早期の修繕を予定している。 ・岩崎運動広場は年々コートの状態が悪化しており早急の改善が求められる。 ・河川敷公園は、ここ数年台風・大雨による冠水被害で利用できない期間があり、屋外種目開催に支障がある。 ・大山崎町体育館の大規模改修に係る長期閉館に伴い、町体育館利用者が学校体育施設へ流れてくる。利用に係るトラブルが発生しないよう、利用日の調整を行う必要がある。		
評価委員の所見	・大山崎小学校グラウンド夜間照明設備が修繕されることは、夜間にしかスポーツする時間が取れない町民にとっては大変喜ばしいことである。岩崎運動広場についても、老朽化が激しいため、早急な改修が望まれる。 ・大山崎町体育館の閉鎖によるスポーツ離れが起こらないよう取り組んでもらいたい。 ・体育施設・公民館ホールと改修等が必要な事案が重複している。学校教育でも給食施設等が検討されている。組織体制として教育関係施設の担当係が独立して担う必要性を感じる。 ・安全なスポーツ振興に施設整備は欠かせない。今後も予算確保・人員確保を望む。		

事務事業番号＜３５＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	歴史資料館運営事業	担当部署	生涯学習課 （歴史資料館）
事業実績	＜歴史資料館の運営、活動＞ 年間入館者総数（開館日数　２９４日） 　　７，997名 図録等販売実績 　　４１１，８２０円		
成果	・近年、大山崎町歴史資料館は堺市立さかい利晶の杜と連携し、入館者割引などの特典を行なっている。両方の自治体は、ともに中世後期の自治都市として発達する一方、荏胡麻油を製造としていた街でもあり、共通点が見られる。こうした成果を企画展示図録「堺と大山崎-自治都市の系譜」でまとめた。 ・歴史街道推進協議会「西国街道部会」などを通じて、自治体立の博物館施設との連携を実施することができた。特に、28年度は、リレートークを大山崎ふるさとセンターが実施することができた。それを通じて、各々の施設や活動をＰＲすることができ、阪神間の人々に当館を周知させていく絶好の機会となった。 ・地元小学校における地域学習においても資料館が積極的に使用された。		
課題認識	・入館者数は、前年度よりも減少した。これは、特に団体客の減少による。 ・図録等の販売数はやや減少した。やはり、団体入館者に対して、じっくりと時間をかけて見学していたたく工夫が必要である。その上で図録等の販売につなげたい。 ・歴史街道推進協議会のイベントでは、阪急電鉄の事業と時期的に重複し、広報などの協力が得られない場面が見られた。推進協議会事務局とも連絡を密にしていきたい。		
評価委員の所見	・歴史資料館を通じて自治体立の博物館施設等と連携されていることは非常に評価できる。今後もこの取組を通じて大山崎の歴史を広く発信されたい。 ・歴史街道推進協議会のイベントが、阪急電鉄の事業と重複し広報などの協力が得られなかったのは残念である。入館者数や図録等の販売数の減少も含め、もっと広く広報することを検討されたい。 ・町が歴史資料館を運営していることは誇れる。 ・地元小学校における地域学習において資料館が積極的に使用された意義は大きい。今後も出前授業等での広がりを望む。		

事務事業番号＜３６＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	各種企画展等事業	担当部署	生涯学習課 （歴史資料館）
事業実績	＜各種企画展の開催・調査活動＞ ５月３日～22日　蘭花譜ー試し刷が語る制作過程（小企画展） 参加者　941名 ８月９日～28日　第18回平和のいしずえ展（小企画展） 参加者　３１６名 １０月22日～１１月27日　堺と大山崎-自治都市の系譜（第24回企画展）　参加者　1608名 ３月７日～20日　東黒門の歴史（小企画展） 参加者　３３９名 ＜その他＞ 収蔵庫の環境調査、館蔵古文書の目録作成		
成果	・企画展において、多くの入館者を得ることができた。 ・本町を訪れた人に対して、館内および名所旧跡を案内する生涯学習ボランティアグループ（大山崎ふるさとガイドの会）が育ち、新たに修得された知識等を活用できた。 ・重要文化財『離宮八幡宮文書』の展示を通じて、大阪府域の都市の歴史の掘り起しを行なった。特に堺市や周辺の集落と大山崎の関係に注目させることができた。 ・寄贈いただいた地元の文化財の目録を作成した。新出史料などを、小企画展において、展示・公開することができた。		
課題認識	・大山崎町は、中世後期以降、自治都市として存続し、やはり自由都市と呼ばれた堺と共通した特徴を持つ。かつての国境の街であったこと、油販売の拠点であったことも類似している。さらに宝積寺所蔵の千手観音立像が、制作にあたって堺の住民が関わっている点が明らかとなった。大山崎と堺との交流がうかがえることになった。 ・今回の展示では、自治都市に関する諸資料を展示することができた。また『離宮八幡宮文書』の読解を通じて考古資料を中心に展示させていただいたが、こうした今まで光が当てられなかった分野についても、一般の方々の興味関心が高いことを改めて再認識させられた。 ・資料借用では、堺市博物館に、また現地見学会ではさかい利晶の杜の協力を得た。昨年に引き続き、大阪府側の自治体との交流の重要性を実感した。 ・当該事業の展開で、幅広い年代に大山崎町の歴史についての学習や体験活動を通して、大山崎町の歴史や文化の理解を更に広げることが必要である。 ・小企画展では、地元の近世・近代資料を調査し、目録作成を通じて、展示に活用した。		

評価委員の所見	・自治都市に関する諸資料や『離宮八幡宮文書』の読解展示などにより、今まで光の当たらなかった分野を紹介されたことは評価できる。 ・類似点のある堺市やその他の大阪府側の自治体との交流を通じ、大山崎町の歴史や文化の理解をさらに深められ、広く町民に紹介されたい。 ・企画展に集客が多いのは工夫をされたからだと想像する。「ふるさとガイドの会」の活用も他地域の方からも評価されている。企画展だけではなく、常設展も希望者に分かりやすい説明付き（対話式）だとより入館者が楽しめる。

事務事業番号＜３７＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	講座・講演会事業	担当部署	生涯学習課 （歴史資料館）
事業実績	＜各種啓発事業の開催＞ ◇講座・講演会等 ９月４日・10月１日・１１月3日　『保』をめぐる住民のつながり-自治の基層（全３回） 参加者　計 200 名 ９月 24 日　西国街道リレートーク「近代の移りかわりと鉄道」 参加者　計 140 名 １０月26 日　ふるさとガイドのための講習会 参加者　計　37 名 １１月１２日　西国街道リレーウォーク「近現代の鉄道敷設と西国街道」（歴史街道推進協議会関連事業） 参加者　26 名 １１月１３日　「戦国都市『自治』論」「自由都市堺と都市住民」 １１月 19 日　「自治都市堺の成立と展開」 参加者　計１21 名 １１月26 日　中世都市堺を歩く（現地説明会） 参加者　16 名 3月 16 日　東黒門と五位川保の歴史を読む（古文書講座） 参加者　22 名 ◇普及啓発事業(文化を未来に伝える次世代育み事業) ７月2日・７月９日　こんぺいとうをつくる!（子ども歴史クラブ教室） 参加者　28 名 7月27 日・28 日　南蛮兜をつくろう！（夏休み子ども歴史教室） 参加者　25 名 3月22 日～4月９日　第１６回地域学習展示交流会 参加者　800 名 ◇調査活動 川崎恵子氏旧蔵資料等の整理、展示		
成　　果	・企画展で学んだ内容を、現地の史跡や文化財とつなげて理解する実践を行なった。学習機会の提供とともに、大阪府自治体との関わりを考える視角を提供した。これによって幅広い視野から大山崎町に対する愛着心を育んでいる。 ・他市町村の活動や研究成果を考えることで、大山崎町の歴史や文化をより客観的に見据えることが出来るようになった。さらに西国街道や鉄道の歴史を扱うことで、広域連携を行なうことにつながった。 ・連続講演会では、大山崎の共同体である「保」を取り上げ、自治意識が鎌倉時代から連綿と存続し、日本史上もっとも古いコミニニティーであることが確認できた。 ・小中学生対象の各事業の実施により、幅広い年代層に対して、地域の歴史・文化を学んでもらう場となっている。特に、毎年相違するテーマを選びつつ、郷土の資料や文学資料を学習することで、地元大山崎町への愛着心が育まれ		

	ることにつながっている。 ・小中学生がボランティアグループと接するなかで、幅広い年代の方々との交流が生まれている。 ・ボランティアグループにおいても、小中学生の習熟度に応じた対処・取組が可能となり、その指導者育成につながっている。講習会などを順次実施していくことで、これを、再生産、補強している。 ・文化財の調査や、その保管する環境調査を行うことによって、新しく確認された地元資料を保存し、これを後代に伝え、展示・公開をさらに進めることができる。また、企画展・小企画展にも活用できた。
課題認識	・大山崎は淀川や西国街道で他地域とつながっており、共通のテーマとなる歴史や文化で結ばれている場合が多い。こうした部分をさらに掘り起こし、他自治体の博物館施設とさらなる広域連携を進めることが課題である。 ・小中学生に関心を高めるテーマを、さらに追求していく必要がある。これには、子どもたちの習熟度に応じた説明や理解の促進を実施することが肝要である。これについては、講習会を実施して対応をした。 ・寄贈を受けた古文書等を調査し、その目録を作成することが必要である。さらに、それを契機に公開・活用していくことをさらに進めるべきである。小企画展などで実践したが、今後もさらにこれを推進していく必要がある。
評価委員の所見	・各種啓発事業を開催することにより、大山崎町の歴史や文化をより深く説明し紹介していくことは意義のあることである。今後は他の地域との広域連携も視野にさらなる啓発事業が実施されることを期待する。 ・大人、子ども向けのたくさんの企画か行われており、結果、ふるさと大山崎への愛着(誇り)か育まれたことは評価できる。観光との連携や小中学校の歴史学習・総合的な学習の時間として教育課程に組み込む、出前授業等さらなる充実か望まれる。さらには、そうした教育課程に合わせた企画（ニーズ調査しても良い）や文化財との連携で考古学資料の展示等は如何か。 ・「〇〇コース」のような、所要時間の目安と共に町内の歴史を巡るガイドブックを（学年発達段階に合わせ）何コースか作成し、小中学校等に配布し、学習で活用してもらうことを検討できないか。

事務事業番号＜３８＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	埋蔵文化財発掘調査•国庫補助事業	担当部署	生涯学習課 （文化芸術係）
事業実績	長岡京跡右京第１１３５次調査　　調査対象面積　７６㎡ 平成２８年5月２３日～6月１５日　　開発に伴う発掘調査事業 長岡京跡右京第１１４４次調査（石倉神社境内の整備に伴う調査）調査対象面積　１５㎡ 平成２８年８月30日～9月１日　　国庫補助事業 長岡京跡右京第１１４３次調査　　調査対象面積　４８㎡ 平成２８年8月３０日～9月１７日　　開発に伴う発掘調査事業 山城国府跡第７５次調査（離宮八幡宮旧境内の調査）調査対象面積　５㎡ 平成２８年１１月１９日　　国庫補助事業 長岡京跡右京第１１５１次調査　　調査対象面積　３００㎡ 平成２９年1月5日～2月２０日　　開発に伴う発掘調査事業 長岡京跡右京第１１５３次調査　　調査対象面積　２４４㎡ 平成２９年1月３０日～3月３１日　　開発に伴う発掘調査事業 第７６次遺跡確認調査（白味才遺跡・大山崎瓦窯跡の範囲確認調査） 調査対象面積　５５㎡ 平成２９年2月7日～2月２１日　　国庫補助事業 第７７次遺跡確認調査（白味才遺跡・大山崎瓦窯跡の範囲確認調査） 調査対象面積　３８㎡ 平成２９年２月２２日～3月３１日　　国庫補助事業		
成果	・国庫補助事業では石倉神社整備に伴う試掘・確認調査、離宮八幡宮旧境内の調査、白味才遺跡・大山崎瓦窯跡の範囲確認調査を実施した。 ・開発に伴う発掘調査事業は、原因者分として４件実施した。 ・とりわけ、長岡京跡右京第１１５３次調査（字円明寺小字里ノ後地内の宅地開発に伴う調査）においては奈良時代の竪穴住居の跡を検出し、成果が得られた。		
課題認識	・開発に伴う発掘調査事業、国庫補助事業の各事業において、調査面積や期間、記録保護等を適切に実施することが重要である。		
評価委員の所見	・開発に伴う発掘調査は、宅地開発等における不定期で予定の立たない事業であるが、貴重な遺構の調査であり、記録、保存に万全を期していただきたい。		

事務事業番号＜３９＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	史跡整備事業（史跡大山崎瓦窯跡）	担当部署	生涯学習課 （文化芸術係）
事業実績	基本設計・実施設計・粗造成工事 平成２８年4月１日～平成２９年3月３１日　史跡整備事業 第１回史跡大山崎瓦窯跡史跡整備委員会 平成２８年7月１４日 第７５次遺跡確認調査 平成２８年１２月１日～平成２９年3月３１日 史跡整備事業　調査対象面積　４５㎡ 第２回史跡大山崎瓦窯跡史跡整備委員会 平成２８年１２月１５日 第３回史跡大山崎瓦窯跡史跡整備委員会 平成２９年３月４日		
成果	・史跡整備事業では、基本設計・実施設計・粗造成工事を行った。 ・第７５次遺跡確認調査では、史跡指定地における窯の配置の全容がほぼ解明され、規模・規格・構造についても詳細を把握することができた。 ・史跡大山崎瓦窯跡史跡整備委員会では、基本設計・実施設計について、協議した。		
課題認識	・史跡大山崎瓦窯跡の史跡整備に向け、整備委員会の意見を聴取しながら、京都府関係部局とも連携し取り組む必要がある。		
評価委員の所見	・史跡指定地における窯の配置・規模・企画・構造など全容がほぼ解明したことにより、整備事業も具体化されるものと思われるが、後世に伝える貴重な史跡であり、どのように整備するのか十分な検討を行われたい。		

事務事業番号＜４０＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	埋蔵文化財等普及啓発事業	担当部署	生涯学習課 （文化芸術係）
事業実績	大山崎中学校職場体験学習（中学校２年生）の受入　11月9日～11月１０日 文化のつどい　11月6日 長岡京跡右京第１１４４次調査・鳥居前古墳・史跡大山崎瓦窯跡のポスター展示 史跡大山崎瓦窯跡現地説明会　３月４日 参加者　約２１０名 スライドでみるおとくにの発掘　３月５日 特別報告「平安京遷都と瓦を焼く人々～史跡大山崎瓦窯跡の調査成果から～」　参加者　約８０名		
成果	・町民の中でも歴史に興味を持つ方は多いことから、発掘調査において成果があった場合、町のＰＲを含めて報告することは効果的であると考える。 ・中学生による職場体験学習では、埋蔵文化財の整理作業体験を通して望ましい社会性や職業観を身に付けてもらうには良い機会である。		
課題認識	・史跡大山崎瓦窯跡や鳥居前古墳など、文化遺産の広報普及とそれを生かしたまちづくり構想が求められている。		
評価委員の所見	・職場体験の中で、埋蔵文化財の整理作業を中学生自身が体験することは、さらに大山崎の歴史に興味を持つことになり、非常に有意義である。 ・大山崎瓦窯跡や鳥居前古墳の発掘調査の成果について、より多くの町民が認識できるよう、広報に工夫をされたい。 ・ 中学校エントランスホールに、発掘された遺物などの展示を行っていることは、中学生が大山崎の歴史を知る上で貴重であり、意味のあることである。 ・小中学校の社会科の時間に発掘担当者による出前授業を検討されては如何か。 ・史跡・歴史等の生かし方は、町づくり構想検討委員会？のような検討体制が必要になるのではないか。 ・発掘等が繁雑な中、啓発・普及については歴史資料館との連携が必要ではないか。		

事務事業番号＜４１＞　　（平成２８年度事業）

事務事業名	文化事業	担当部署	生涯学習課 （文化芸術係）
事業実績	乙訓地方中学校吹奏楽部演奏会（乙訓文化芸術祭）H２８年４月３０日 主催　乙訓文化芸術祭実行委員会・乙訓地方中学校校長会 民俗芸能鑑賞会「千本ゑんま堂大念佛狂言」　解説・実演 H２８年１１月２０日 主催　大山崎町教育委員会・大山崎町文化協会		
成果	・乙訓文化芸術祭は、大山崎町・長岡京市・向日市内の中学校８校の吹奏楽部が集い、日頃の練習の成果を発揮する良い機会となっている。 ・当該事業は毎年好評で、観客は約１，０００名である。こうした大勢の観客を目の前にして演奏する生徒たちは、緊張や失敗、仲間とやり遂げた達成感や充実感等を体感することとなる。よって、「大舞台で、どれだけ自身のパフォーマンスが発揮できるか。」を試すには、絶好の機会である。 ・民俗芸能鑑賞会では、約１６０名の住民が身近な場所で、普段触れることの無い京都市登録無形民俗文化財を鑑賞した。 ・解説や公演により民俗文化財の理解が深められ、伝承してきた歴史の重みが伝えられた。		
課題認識	・芸能・芸術は、人間生活にとって不可欠な要素の一つである。 ・多面的な角度から、各種のニーズにこたえることが望まれる。		
評価委員の所見	・民俗芸能鑑賞会は、住民が身近な場所で文化芸術に触れられる良い機会となっている。今後も住民の文化芸術に接する機会として継続されたい。 ・民俗芸能鑑賞会の広報は乙訓全域にされているのか。乙訓地方中学校吹奏楽部演奏会のように二市一町の文化協会の相互乗り入れを構想できないか。		